聖徒の道

9

1958年3月17日第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）第8巻第9号　1964年9月1日発行

SEITO-NO-MICHI

予言者のことば
一人一人のあかし
大管長デビド・O・マッケイ
484

伝道部長メッセージ
聖典をしらべなさい
伝道部長　ダワエン・N・アンダーセン
487

質疑応答
アルマはどこで神権を受けたか
ジョセフ・フィールディング・スミス長老
492

オークランド神殿
494

末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粋
498

扶助協会レッスン
神学・訪問教師・仕事会・文学・社会科学
506

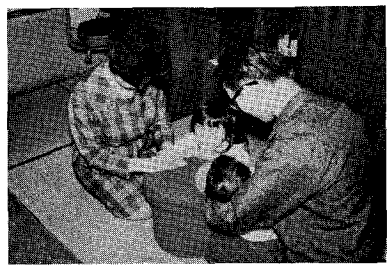
系図の道しるべ
523

ジョセフ・スミスの生涯
526

伝道部扶助協会長メッセージ
525

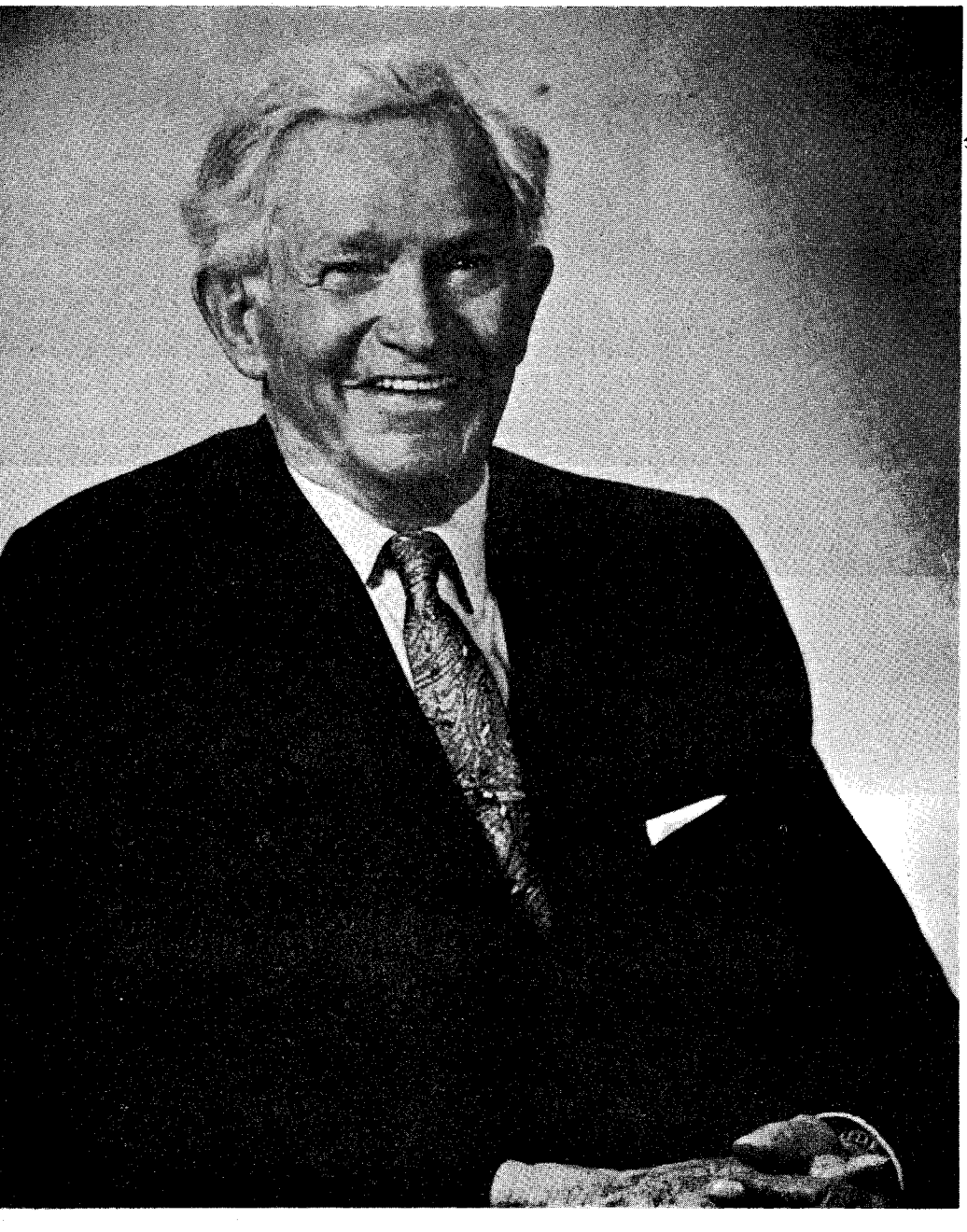
聖徒の道　第八巻 第9号

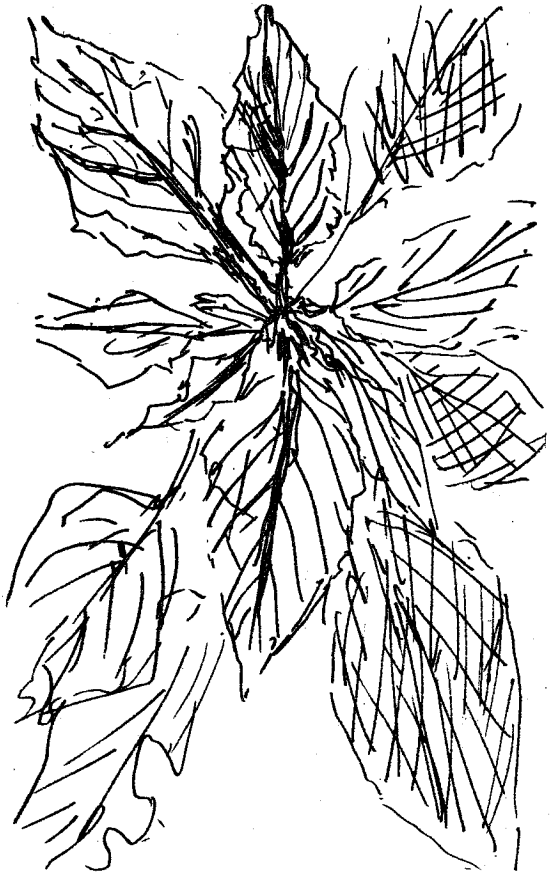
1964年　9月号



表紙　家族の祈り

横浜支部　斎藤勉兄弟の家族





予言者のことば

一人一人のあかし

大管長
デビド・O・マッケイ

今日多くの人は、末日聖徒イエス・キリスト教会が大きくなりしっかりしていて、その上さかんに活動していることの秘密はどこにあるか知らと不思議に思っている。

その秘密は、福音が正しい諸原則から成っているという、忠実な教会員一人一人のもっているあかしにあるのである。これこそ「時の絶頂」（キリスト在世の当時）に使徒のかしらである。ペテロに与えられたと同じあかしである。

あなたたちは、あかしが突然に与えられなくとも落胆してはいけない。あかしは突然ペテロに与えられなかった。今、あなたの注意を一つの例にむけていただきたい。

あなたたちは、救い主が五千人の人々に食を与えてから、あの大あらしの湖をわたってカペナウムへ行かれたことを覚えている。その五千人のうちのある者は、北の方の岸を徒歩でまわって行き、翌日主イエスに会うためカペナウムへ入っていた。そのとき主イエスはカペナウムで巧みなことばでお教えになったが、その中で群集に「あなたがたがわたしをたずねてきているのは、しるしを見たためでなく、パンをたべて満腹したからである」とお言いになった（ヨハネ伝六〇二十六）。群集は、主イエスが大麦のパン五つと小さなさかな二匹で五千人の人々に食をお与えになったことをその目でみたが、それよりもっと深い意味のある、は

るかに意義のあるものを見のがしていた。

それにつづいて主イエスは、命のパンに関するあの名高い説教をなさったが、その象徴している本当の意味を理解することができなくて、群集は立ち去りはじめた。それまで主イエスについてきていた人々も、主イエスをはなれて背中をむけ始め、とうとう十二使徒だけがあとにのこった。そこで主イエスは十二使徒に言われた。

「あなたがたも去ろうとするのか」、これに対して（私の好きな）せっかちな指導者であるが、実際的で堅実な代弁者である。ペテロは「主よ、わたしたちはだれのところへ行きましょう。永遠の命をもっているのはあなたです。わたしたちは、あなたがキリスト、生ける神の子であることを信じ、またたしかに知っていますと答えた（欽定訳聖書、ヨハネ伝六〇六十七—六十九参照）。

私は「信ずる」ということばと「たしかに知っています」ということばをつくづく考えてみた。そのようにペテロは言ったであろうと思うからである。そのときペテロのもっていたあかしはまだ強い、決定的のあかしではなかったと思われる。（もしあなたがたが信じないなら）、私はあなたがたにその解釈を受け入れてくださいとは言わないがそのときペテロが「あなたはさいわいである」ということばを受けていなかったことは確かであろう。

イエスは弟子たちに、さらに教えを授けるため、彼らをつれてカペナウムから近くにある山へ入って行かれた。イエスと弟子との間に次のような問答のあったのはこの間のことであった。

「人々は人の子をだれと言っているか」。彼らは言った、「ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。また、エレミヤあるいは予言者のひとりだ、と言っている者もあります」。そこでイエスは彼らに言われた、「それでは、あなたがたは、わたしをだれと言うか」。シモン・ペテロが答えて言った、「あなたこそ、生ける神の子キリストです」。するとイエスは彼にむかって言われた、「バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。そこで、わたしもあなたに言う。あなたはペテロである（ペテロはこの啓示またはあかしが神からであることが知った）そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉（よみ）の力もそれにうち勝つことはない」（マタイ伝十六〇十三—十八参照）。

一人一人のこころに与えられる啓示である霊感は、その上にあかしが立てられるべき岩であって、聖霊がそのあかしを人のこころに持たせることのできるような律法に従い、清い生活を送るならば、何人といえどもその霊感の得られない人はない。

このあかしは、これまでイエス・キリストの福音の諸原則に従い、かついろいろの儀式を守って、導きを与えたもう「神のみたま」と「聖霊」とを受けている、あらゆる誠実な人々に一人のこらず（神によって）示されている。

主は「教義と聖約」の中で、イエス・キリストは神の子であって、しかも世の人の罪のため十字架につけられたことを知るために、そのあかしがある者に与えられると言っておられる。またさらに主は、他の者のあかしを信ずるためにあかしの与えられる者たちがほかにあり、これはもしその者たちが忠実にしてやまなければ、また救いを得んがためである、と仰せになっている（「教

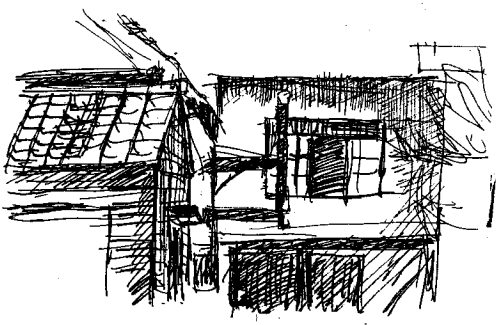
義と聖約」四十六〇十三―十四参照)。しかしながら、すべてこれらの人には、一つ一つの義務を果すときにいつでもあかしが与えられるのである。

これらの人々は、福音が彼らを教えて一層善い人にならせること、福音の原則に従がうときに彼らは一層強い男、一層誠実な女になることをたしかに知っている。毎日毎日、このような知識が彼らに与えられるが、彼らはそれを否定することができない。彼らはイエス・キリストの福音に従がうとき、一層善い誠実な夫となり、誠実な立派な妻となり、すなおな子供となり、あらゆる点で理想の家庭をつくる者となることをよく知っている。

彼らは福音に従がうとき、人類の間にまことの兄弟愛と友情とがはぐくまれることを知って居り、また律法といろいろな儀式に従がうことによって一層善良な市民になることを知っている。彼らが日常の行ないを経て彼らの職業に宗教を実践するとき、福音のまことであることがその生活の中で証明されるようになるのである。

福音の(まことであることの)あかしは、この混乱と争いの唯中において人のこころの錨(いかり)である。福音の(まことであることの)あかしを持っているなら、われわれはイエス・キリストの教会のもっているもう一つの特質である愛を世の人々にはっきり示すことができないものであろうか。神とその律法とを知ることはすなわち安定であり、満足であり、平安であることであって、それによって愛に満ちた心が隣人にのびて、同じ祝福同じ特権を与えようとするのである。愛は寛容と親切とを産むであろう。お互いに慈悲仁愛の心をわすれないようにしようではないかまた兄弟の名声をきずつけ、その感情をそこなわないようにしようではないか。

福音が真実であることを確かに知っていることと、福音の目的と意義を理解することとは全く別である。われわれは、イエス・キリストの福音が人類の間にあるのは全人類をあがなって救うためである、という永遠の真理に心を集中し、考えをしっかり固めて立とうではないか。またわれわれはこの精神をもって出て行き愛と親切の精神をもって隣人と交じわろうではないか。



聖典をしらべなさい

★福音に従がう前に福音の知識を得ることが大切です。

イエス・キリストの福音に従がうことほど、わたくしたちにとってこの世の中で大切なことはありません。わたくしたちは、福音を宣べている聖典をしらべようではありませんか。わたくしたちは、主がわたくしたちに啓示してくださったことを知ろうではありませんか。わたくしたちは、わたくしたちの生活を主イエスの真理と一致させようではありませんか。そうすればわたくしたちは欺かれないで、悪と誘惑に抵抗する力ができるにちがいありません。わたくしたちの心は生き生きとした力を得て、真理を理解し、真理を誤まりからわけることができるにちがいありません。

わたくしたちが迷わされないように、主がこれまで啓示なさっていることをくわしく知れということは、このまことの教会の会員であるわたくしたちが命じられていることであります。それは、国中に広く多くの霊があると主が仰せになっているからであります。その中には人間の霊もあり、悪魔の霊もあるが、主は主の「みたま」をわたくしたちに賜うて、もしわたくしたちがそれを受けるなら、その「みたま」はすべての真理について導きを与え道を教えてくださいます。もしもわたくしたちが真理の知識をもたなかったなら、どのようにして真理をふみ行なおうとするのですか。

★これまでに啓示されていることをすべて学びなさい。

わたくしたちは次のように言明しています。「われらは、すべて神のこれまで啓示したまいしこと、すべて今啓示したもうことを信

伝道部長
ダワエン・N・アンダーセン

じ、なを今より後、神の王国につきて多くの偉大にして重要なることを啓示したもうことを信ず」（信仰箇条、第九条）。

これは真実でありますから、わたくしたちは主のこれまでに啓示しておいでになること、また今啓示しておいでになることをすべて知らねばなりません。そうでなければ、わたくしたちは主の御わざと何の連絡もなく、従ってわたくしたちに関する主のみこころを知る由もありません。それはわたくしたちに主のみこころがわからないからであります。

主がこれまでに、主のしもべである数々の予言者を通して啓示しておいでになるすべてのことを、わたくしたち教会の会員が一人のこらず賢く知っていなくてはならないということは、会員である聖徒たちが日の栄の最高に昇るために最ものぞましいことであります。わたくしたちはそうすることによって、主のみこころをよく知るようになり、また主がこれまでにくださった誡命の一つ一つがなぜ与えられたかそのわけもわかるようになり、そしてわたくしたちの救いのために備えられている律法と儀式に従がうようになることができるのであります。

★無智のままでは救われません。

主は、主の子供たち（われわれ人類）が主の啓示なさった偉大な諸原則と誡命について完全な知識を得たいと思い、その時間と力をつくして学びかつ考えるとき、ひじようにお喜びになります。なぜならば、主の啓示なさった原則と誡命とを知ってこれに従がわなければ救われないからであります。

真理の光を受け、かつその研究と従順とによって福音をよく知ろうと努める人々は、規則に規則を加え、誡命に誡命を加え、ここにも少しくかこにも少しく受けて、ついに完全な真理がその人の身につくと約束されています。これらの人々は神の王国の奥義さえわかるにちがいありません。

「すべて求める者は得、さがす者は見出し、門をたたく者はあけてもらえるであろう」（マタイによる福音書七〇八「教義と聖約」七十六〇一―十、九十八〇十一―十五、百二十一〇　二十六―三十二、百二十八〇二十一、二十八〇九―十三参照）。

すべてこれらの人々は救いを受ける者たちであって、神の息子や娘たちとして、神の在ます「日の栄の王国」の最高の栄に昇ると共に、光栄と不死不滅と永遠の生命の冠を受けるにちがいありません

★パウロが聖徒たちに聖典を学べとすすめたわけ。

「これまでに書かれた事がらは、すべてわたしたちの教のために書かれたのであって、それは聖書の与える忍耐と慰めとによって、望みを抱かせるためである」（ローマ人への手紙、十五〇四参照）。使徒パウロは、昔の予言者たちが霊感を受けて書いたものについてローマの聖徒たちにあててこのように手紙を書きました。

パウロはまたテモテへあてて次のように書いています。「聖書はすべて神の霊感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である」（テモテへの第二の手紙、三〇十六参照）。

このようなわけでパウロは、その時代の聖徒たちは、主のしもべたちが霊感を受けて書いたものを学びなさい、それはあなたたちが聖書の知識を増し、ますます主のめぐみを受けるようになり、教会の教えがわかり、それによって永遠の救いを得る望みを得て慰められるためである、と先に立って言いひろめました。

★初期の教会では聖典を学ぶことが困難であった。

パウロがテモテやローマの聖徒たちに手紙を書いたころに聖書は手に入りませんでした。というのは、今あるような聖書を組立てているいろいろな書（モーセの五書、予言者の書そのほか）は、その当時まだ編集されていなかったからであります。またこれらの書の全部は各教会の文庫の中にもありませんでした。それでありますから、当時のどんな支部教会の会員であっても、モーセの五書を一そろいと、古代予言者の書、使徒の書簡の断片などを持っている人があったらほんとうにその人はしあわせでありました。当時四福音書はまだ書かれていなかったので、聖徒たちは神の御子の教えを知るためには、生きている証人たちのあかしをたよりにするほかほとんど手段がありませんでした。当時聖徒たちのもっていた書物というのは、羊皮紙の上に手で以て文字を書きしるした巻きものでありました。ふつうこれらの書物は、博学な律法学者か祭司たちが大切にしてうやうやしく守って居り、一般人の目にふれたり手でさわられたりしない会堂の神聖なところに入れて油断なく管理をしていました。

★初期の聖徒たちの中に在った福音学者。

当時印刷技術はまだ知られていなかったので、会堂や人々の集るところで使われる写本を作るために聖典を書きしるすには大へんな忍耐と時間と熟練とを要しました。当時一般の人々が、しあわせにも持っていたような聖典を学ぶことは本当に大きな特権でありました。

その当時、読み書きは一般に行きわたって居らず、それらの技術は、神聖な書き物を写す業に従事して神のことばの解釈をする者と認められていた律法学者の階級と、民の教師となるための訓練を受けていた祭司や教師たちの階級にほとんど独占的にかぎられていました。

しかし、一般聖徒はわずかしか機会がなかったにもかかわらず、昔の使徒たちや主なる贖い主からさえ、すべての予言者の書いた物をよく知るようになれと言われました。また勉学をするのに大きな障害があったにもかかわらず、主イエスの福音の知識に精通するようになって聖句を熱心に宣べ伝えた初期の聖徒が多くあります。

★主のみことばを宝とする（心に銘記して実践する）方法。

「たれにてもわがことばを宝とする者はだまさることならん」という主イエスの勧告に従がうなら、それはよいことでしょう（「高価なる真珠」ジョセフ・スミスの著一〇三十七参照）。主イエスの御ことばを宝とする（心に銘記して実践する）ことは単に聖句を読むよりもはるかに大切なことであります。主イエスの御ことばを宝とする（心に銘記して実践する）には、人は読んだりしらべたりするだけではなくて、主イエスのお与えになった誡命を謙そんな心で探り求めてこれに従い、聖霊がお与えになる霊感を得なくてはなりません。

★「神秘」を追い求めるな。

わたくしたちは自分の足をいつも地につけていて、神秘的な空論的な、主がまだ明らかにしておいでにならない物事の領域に足をふみ入れてはなりません。わたくしたちの為さねばならぬことや救いに関することで、明確に啓示してある大切なことがひじょうにたくさんあります。わたくしたちが自分の時間を費して考え深い勉学をしなくてはならぬことこそ、それらのことであります。

これまでに一部分しか啓示されていない神秘なことや教義は、主の再臨をまって明らかにされます。それは、そのとき、すなわち「主の来りたもうその日にはすべてのことを顕わしまわん。すなわちすでに過ぎ去りしこと、また何人も知らざれかくれたること、この世の造られたる事物のこと、またこの世の目的、終りなど……」をあらわしたもうからであります（「教義と聖約」百一〇三十二―三十三参照）。

福音の根本原則――すなわち人類の救いに関するすべて――はひじょうに明らかであって、ふつうの知恵を持った人々はすぐに理解することができます。わたくしたちの救いに何の関係もなく、従って「救いの計画」がわたくしたちに要求している誠命や義務に何の関係もない役に立たぬ疑問の討論に時間を費やすことは、まったくむだなぐさみであります。

もしもわたくしたちが「真にへりくだりたる心と悔いる精神とを以て」謙そんに導きを得るために「主のみたま」を得ようとするならば（「教義と聖約」五十九〇八参照）、わたくしたちには越えることのできない多くの困難はなく、外見上の不調和は消え去り、全能の神の啓示なさったすべての中に、全能の神の知恵があることがわかるにちがいありません。

（十二使徒会々長ジョセフ・フィールディング・スミス長老著「聖典をしらべなさい」を以て今月の私のメッセージに代えます。伝道部長ダワエン・N・アンダーセン）。

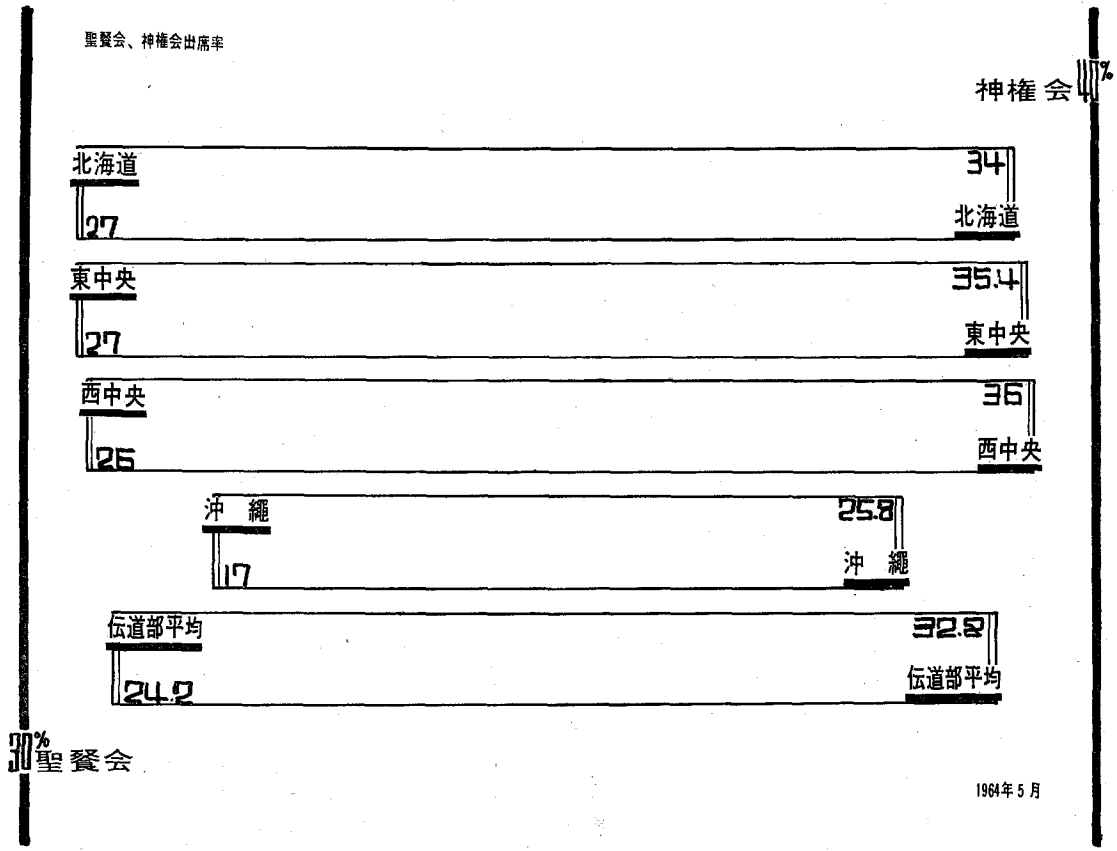
ジョセフ・スミスの訓戒

「まったくやさしくおだやかな中におごそかなところのある態度で行き、イエス・キリストであり贖い主であるお方の福音をのべ伝えなさい。そして、他人の信仰や宗教上の主義のために争論をすることなく、しっかりと落ちついて道を進んで行きなさい。このことをわたしはいましめとして述べる。これを守らないすべての人はその頭に迫害を招き、一方これを守り行なう人々はつねに聖霊にみたされるにちがいない。わたしは予言のことばとしてこれを述べる」。

JOSEPH SMITH'S ADMONITION

"Go in all meekness and sobriety and preach Jesus Christ and Him crucified; not to contend with others on account of their faith or systems of religion, but pursue a steady course. This I deliver by way of commandment, and all who observe it not shall pull down persecution upon their heads while those who do shall always be filled with the Holy Ghost. This I pronounce as a prophecy."

聖餐会、神権会出席率



1964年5月

質疑応答

解答者

ジョセフ・フィールディング・スミス長老

十二使徒会会長

アルマはどこで神権を受けたか

質問。

アルマはどこで神権を受けましたか。私たちが見つけることのできるのはアルマが神権を神から授かったということだけであって、くわしいことはしるしてありません。従がって私たちはそれがアルマのバプテスマを受ける前であったかどうか、ただ不思議に思っているほかはありません。何が何やらわからないので困って居りますので、何でも教えてくださることができるならありがたいと思います。

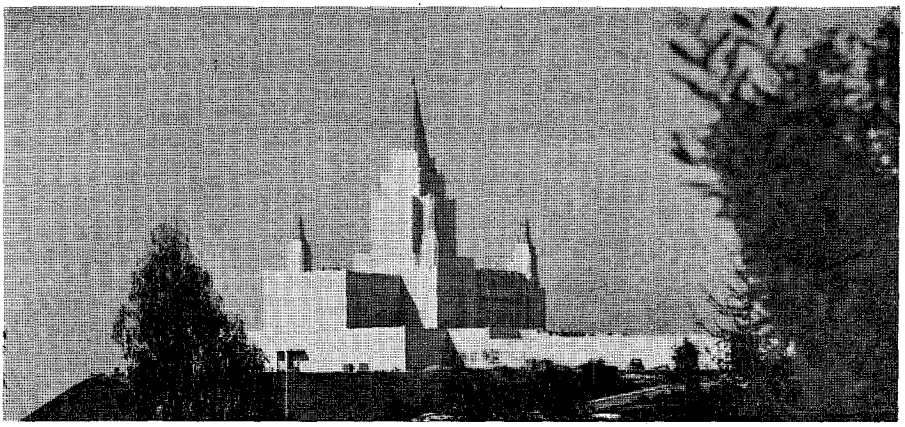
解答。

われわれがモルモン経の研究をするとき考えておかなくてはならないのは、それがニーファイ人の中の予言者たちが記録した歴史からとって短くまとめたものであるということである。それであるから、くわしいことは多くの場合のっていない。これは大昔から伝えられてきた聖書の中にあるイスラエルの歴史についても同じことである。われわれは、リーハイがエルサレムを去るときすでに神権をもっていて、この神権が「救い主」の訪ずれたもうときまで代々伝えられてきたという事

実を受け入れるほかはない。なおまた、くわしいことはのっていないが、ニーファイ人たちがメルケゼデク神権をもっていたという証拠はきわめて明らかである。ニーファイ人の中にはレビ族の者が一人も居なかったので、ニーファイ人はメルケゼデクの神権によって福音の儀式を行なった。モルモン経には、ニーファイ人のもっていた聖なる神権（アロン神権でないメルケゼデクの神権）について言ってある聖句がたくさんある。またわれわれは、自分たちの受けた記録（モルモン経）は抄録（短かくまとめたもの）であるから、当然くわしいことは度々のっていないということを忘れてはいけない。なおまた、われわれは教会員ではあるが、その心がかたくなであって、進んで誓約を守る心がなく、また進んで神聖な知識を求める心がないので、多くの重要な事をわれわれに知らせるのをさしひかえてあると教えられている。

アルマとアルマの神権の場合においては、アルマがノア王の時代より前に、神権を合法的にかつ神の権能によって受けたと推測するほかはない。モルモン経を読むと、ノア王の父ゼニフは義しい人であった。アルマは明らかに神権をゼニフの時代に受けたが、いつの時にもノアとその祭司たちの教えを完全に受け入れたこともなければ、彼らの勧告や行為に固い決意を以て従がったことはなかった。予言者アビナダイの痛烈な非難に深く心をうたれたのはほかならぬアルマであった。なおまた、その非難を記録した者こそアルマであった。それはアルマがアビナダイの言明したことを全く信じたからであって、アルマはそれ以前に犯したすべての罪を悔い改め、教えに殉じた予言者の戒めを喜んで受け入れる人々をよせ集めることを、悔改めの精神で着手した。そして、これらの人々の命を救うために、アルマとアルマにつき従がう人々は荒野に逃れて行かざるを得なかった。これに関してジョージ・レイノルヅ長老は、その貴重な著「モルモン経の注釈」第二巻の中で次のようにしるしている。

「アルマは予言者アビナダイの語るのを耳にしたすべてのことばを記録した。アビナダイが死刑の宣告を受けたとき、アルマはアビナダイを弁護する者となり、その後彼のもつ真理のために戦う者となった。アルマはノア王のところへ行って、アビナダイの命を助けてもらいたいとこいねがった。このときからアルマは、リーハイ・ニーファイの地に在るニーファイ人の記録をつけたもしくはつけさせられたと推測することができよう。またアルマはノア王の民によって荒野の中へ追いはらわれた主の民の記録も同様につけたと推測することができる」。



オークランド神殿

ハロルド・W・ブルトン、
W・エイアド・マクドーナルド
（教会建築部監督）

四十年前の一九二四年の夏、故ジョージ・アルバート・スミス大管長（当時十二使徒会員であった）はサンフランシスコのボーイ・スカウト大会に出席していました。私（エイアド・マクドーナルド）はその時、カリフォルニヤ伝道部、小オークランド支部の支部長でありましたがノブ岡の上にあるフェアモントホテルに居られた彼に招待されて訪ねました。私たちは屋上に坐って東湾を望み見ながら支部の組織のことに就て語って居りました。

フェアモントの高台から大サンフランシスコ湾の素晴らしい光景が一望の内に見渡されました。夕日が東岸全面に映えてオークランドの岡が金色に輝いていました。私たちがその素晴らしい光景に感歎していた時スミス管長は突然、黙って数分間じっと東湾の岡を見つめていました。

〝マグドナルド兄弟、私はあの高い岡の上に白い主の神殿を示現のように見ます〟彼はこうつとして更に続けました。〝世界中の旅行者がこの素晴らしい港に来て金門橋を通る時、彼らにしるしとなるように〟そして彼は暫らくの間眼の前の情景を確めるように見つめて居りました。〝そうです白い大きい主の神殿がこの岡に光栄をもたらし、この犬市街を訪れる天父のすべての子供たちを歓迎するしるしとなるでしょう〟彼は静かに確信を以って言いました。

その数年後当時十二使徒であったデビド・O・マッケイ大管長は私たちの最初のステーキ部大会に出席すべくオークランドを訪ねました。そしてスミス兄弟が神殿を示現に見た場所を見たいと頼みました。私は現在オークランド神殿の建っている岡に彼を案内しました。その後、この白い神殿の示現はそ

の地方の教会々員の夢となり、その土地の購入の為十数年の交渉がなされたのでした。いろいろの障害がありましたが、一九四三年一月二十八日に一万八千弗余りを以て最初の一劃が購入され、その後追加されたのであります。

一九六二年三月二十八日、デビド・O・マッケィ大管長によってくわ入式が行われたのでありました。現在二十五のステーキ部がこの神殿の地域に層しています。

教会建築委員会のハロルド・W・ブルトン兄弟が神殿の建築技師として任命され、この末日の神権時代に於ける十五番目の神殿の建築が開始されたのであります。ステーキ部長会たちは非常に喜んでこの神殿の建築の為に、五十万弗以上の資金をつくることをマッケィ大管長に誓ったのであります。それはこの地域に属する九万二千名の教会々員に対し一人当り五弗以上でありました。けれども子供や未亡人迄相当な額を寄附し又会員でないオークランド市の一市民は喜んで三千五百弗の寄附をしたのでありました。ストーン部長は、一九六四年二月二十四日に六十万弗以上の寄附があったことを報告し、これによって人々が如何に喜んでこの要求に応えたかがわかるのであります。

くわ入れ式には大管長会全員と多数の教会幹部更に約七千名の会員が出席しました。そしてその翌日から建築が開始されたのでありました。

一九六三年五月二十五日、ジョセフ・フィールデング・スミス十二使徒会長によって隅石が置かれました。七千名の会員が出席しタバナクル聖歌隊が列席讃美の歌を歌いました。

他の神殿では四つの部屋で執行されている神殿の儀式がオークランドの神殿では二つの部屋に整理されています。日の光栄の部屋は両方の儀式部屋に共通となって居りますので一組の神殿が働いている人は両方の部屋の儀式を執行することが出来ます。

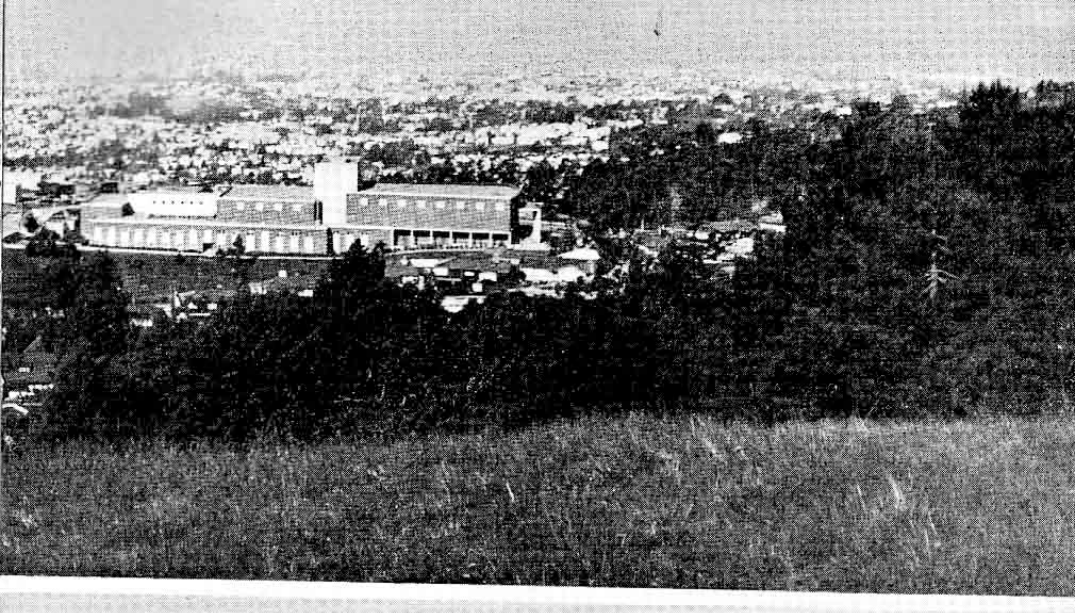
日の光栄の部屋は中央尖塔の真下に三十八フィート平方天井までの高さが三十五呎あります。壁はイタリーから輸入した美しい黄金色の大理石であります。

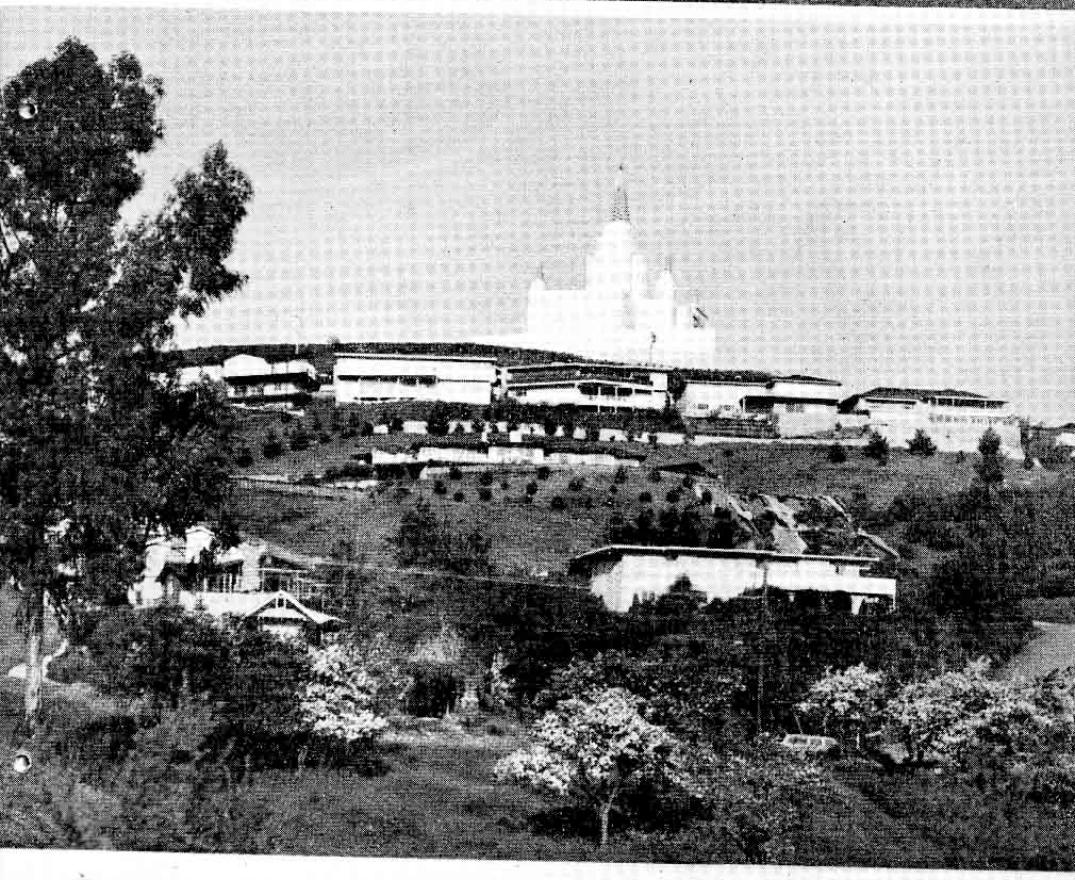
日の光栄の真下、建物の中央の最下部に浸礼盤があります。この浸礼盤の前方は金箱に覆われた十二匹の実物大の雄牛の像によって支えられて居ります。これらの牛は早期モルモンの開拓者が広野を渡った時に用いた牛そのままであります。

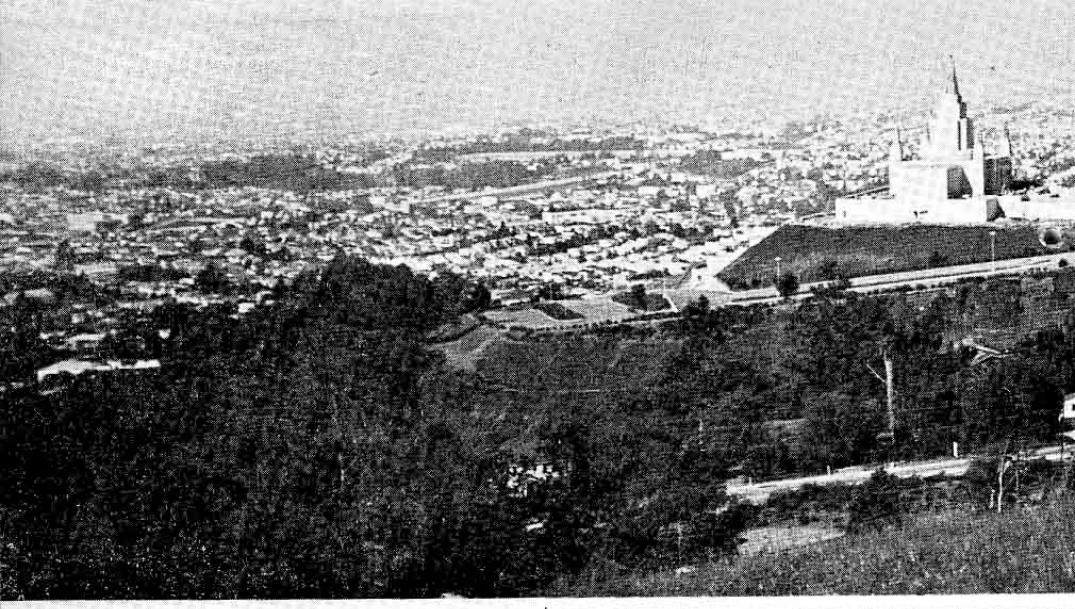
ここには十の結び固めの部屋がありその内二つは六十の坐席、四つは二十二、四つは十六の坐席を有しています。四回の壁は絹で覆うた鏡板と鏡から成りその全側の連続反射によって永遠を象徴して居ります。一階は儀式の始めに充てられ西翼は情報局とお客さんの為の応接室となって居ります。東翼には神殿教会堂やその他事務室があります。

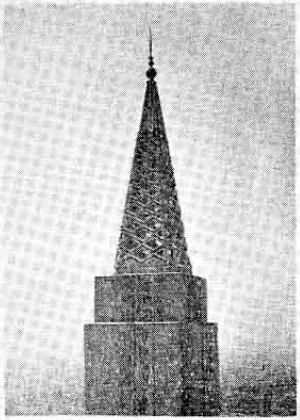
神殿は東西二百十フィート南北百九十フィートの土台床の上に立ち中央尖塔の高さは百七十フィートあります。四隅にこれより低い四つの塔があります。尖塔は何れも青ガラスモザイク及び金箱に覆われて太陽の光に映え夜はその内より照明を放って居ります。神殿は素晴らしい眺望を与え特に夜は数哩の彼方から眺められます。

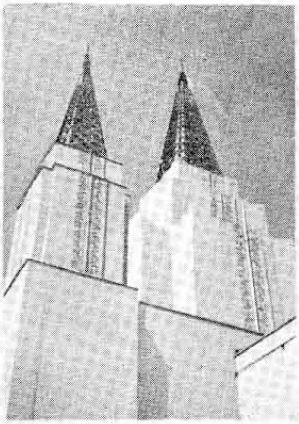
神殿外面の特徴は北側と南側の両壁面に、幅三十五フィート高さ十三フィート一インチの彫刻面であります。北側にはパレスタインに於けるナザレのイエスが刻まれ、南側にはバウンテフルに現われたキリストが示されてあります。これは建物全体に使われたみかげ石によって造られているので神殿の建物の重要な部分となって居ります。



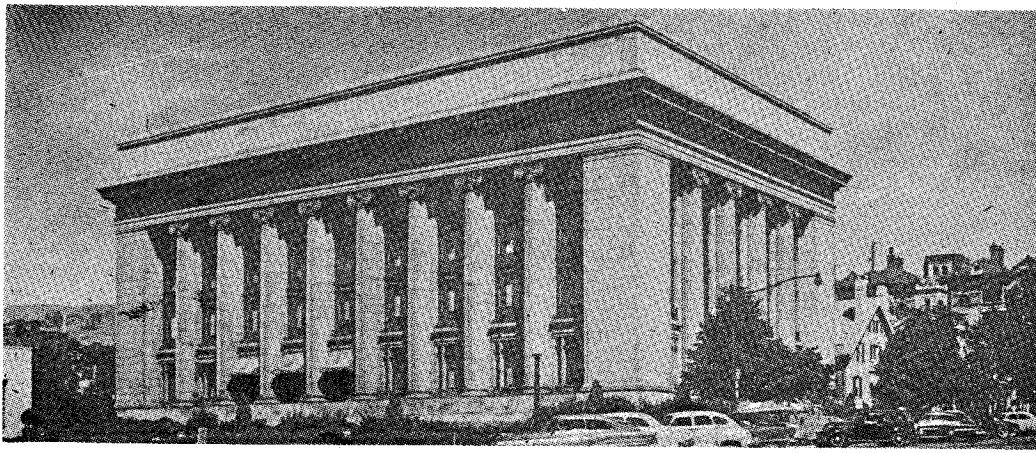








ジョセフ・フィールディング・スミス著



末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粋　48

第四部　ノーヴー時代

第二十七章　ノーヴーの基礎を置く

（千八百三十九―千八百四十年）

十一、ノーヴー大学。　市参事会は「芸術、科学、および医学法律、神学を教えるため」に「ノーヴー市立大学」を設立組織する権能を与えられた。この大学は学長、書記、および二十三人の評議員から成る理事会の下にあるはずであった。これらの理事は市参事会から任命を受け、「この州にあるその他の専門学校もしくは大学に関係する教育問題の振興」のすべてについて権限を与えられていた。

十二、ノーヴー軍団。　別の条項は市参事会に次の権能を与えた。すなわち「同市の住民を組織して軍務に服さしめ、これを『ノーヴー軍団』と呼ぶ。而してその軍法会議はその軍団の将校より構成される立法部となり、その軍法会議が合衆国憲法もしくは本州の憲法に反対するもしくは予盾する法律または条令を可決せざるかぎり、またその軍団の将校が本州の知事によって任命されているかぎり、その軍団の利益と管理と規正に必要と考えられるような法律と条令とを作成、制定、確立および施行することを得る完全な権限を与えられる」というのである。この軍団はそのほかの正規の市民軍の隊と同量の軍務を遂行し、市の法律や条令を遂行するため市長の要求に服し、また公共の防衛を行なうために知事の要求に服する命を受けていた。

十三、市役員の選挙。　定められた日に選挙が行なわれて憲章

（または政府の与える特許状）の獲得に当ってひじょうに活潑に働らいたジョン・C・ベネットが市長に選ばれた。市の助役はステーキ部長のウイリヤム・マークス、サムエル・H・スミス、ニューエル・K・ホイットニーおよびダニエル・H・ウエルズであったがこのうちダニエル・K・ウエルズは当時まだ教会員ではなかった。また市参事会員はジョセフ・スミス、ハイラム・スミス、シドニー・リグドン、チャールス・C・リッチ、ジョン・T・バーネット、ウイルソン・ロウ、ジョン・P・グリース、ドン・カルロス・スミス、およびヴインソン・ナイトであった。そして市参事会員はヘンリー・G・シャーウッドを司法部法官に、ゼームス・スロースを記録係に、ロバート・B・トムソンを会計に、ゼームス・ロビンソンを課税評価人に、オースチン・カウルスを市街管理人に任命した。ノーヴー軍団が組織されたときに、ジョセフ・スミスは軍団の中将に選挙されて死に至るまでその地位に在った。

十四、市長の性格。　ノーヴー市初代の市長ジョン・C・ベネットは千八百四十年の終り近くにノーヴーへ来た。彼は千八百四年にマサチュセッツで生まれ、始めオハイオでまたその後イリノイで医師を開業した。末日聖徒がミズーリ州で迫害を受けているうちに始めて末日聖徒のことを耳にし、千八百四十年予言者（ジョセフ・スミス）と文通をして末日聖徒たちに深い同情をあらわし、また彼らの受けた悪い取りあつかいに対して非難の意をあらわした。予言者に手紙を書いたとき彼はイリノイ州の「主計総監」であったが、その前かって民軍の中で「無敵竜騎兵隊の准将」をつとめたことがあった。ノーヴーへ来てから彼は教会の会員となり、市の憲章（政府の出す特許状）を獲得するために最も活潑な働らきをした人であった。彼は大言壮語をし尊大であって多くの人間的弱点をもっていたが、ひとかどの才能をもった人であった。もちろん彼はこの世の名誉を求めていたけれども、教会の会員になったときの目的が誠実なものであったことを考えなければならない。しかし、後になって彼に不道徳な行為があったために、彼は内心（教会に対して）ひじょうに不愉快な感情を抱くようになり、教会の働らきに対する第一の反逆者となった。千八百四十一年二月の三日に行なった彼の就任演説は傾聴に値する多くの意見を含んでいるが、（一体）に知ったかぶりの精神があらわれていたので好結果を大いにそこなった。

十五、万人に自由を。　ノーヴー市が最初に（市議会を通過させた）決議は、ジョセフ・スミスが提出した決議であって、憲章（もしくは政府が与えた特許状）が「たぐいのない寛大さ」を以ていろいろの権能を授けていることに対し知事、訂正評議会およびイリノイ州の立法府に対して感謝をあらわした。その後、と言っても最初に提出された条令の中の一つはカトリック、長老教会、メソジスト、バプテスト、末日聖徒その他すべての宗教団体の保護を保証するものであった。条令にあるように、これらの宗教団体は当市に於ては信仰の自由と同等の特権とを有し、だれであってもその信ずる宗教のために他人をあざけり、ののしり、さもなければ他人に反対をすることがあれば、または当市内に於けるどのような宗教上の集りでもこれを乱しまたは妨害することがあれば、市長もしくは市裁判所（の権限に）よって有罪とせられ、公安を乱す者と考えられて五百ドル以下の罰金を課せられるか、六ケ月以下の禁錮に処せられるはずであった。そのほかいろいろな方法で市民の自由と個人の権利とが、乱暴者、暴徒、および治安を乱す者の行ないに対して保護

を受けた。

第二十八章　外国伝道の働らき

（千八百三十九—千八百四十一年）

一、十二使徒の外国伝道。　千八百三十九年四月の二十六日、十二使徒の大部分は当時まだ敵地であったファーウェストで聖徒たちと別れを告げた。これはすでに彼らが命を受けていたように、出て行って「大海のむこうに」永遠の福音を宣べ伝えるためであった。これらの勇敢な人々の家族はすでに各々の家から最近無慈悲に追いはらわれ、雨露をしのぐ宿と好意による住所とを求めて旅をしていたのであった。（だれでも）人がその家族を家なく、金なく、欠乏と病苦の中にのこして、財布も旅のふくろも持たずに、福音を宣べ伝えるために外国へ大海をわたって行くには最大の勇気がなくてはならなかった。それにもかかわらず、これはその当時これらの兄弟に課せられたこころみであった。これらの人々はくじけることなく男らしく立派に彼らの十字架をとりあげて各々の使命に旅立った。彼らと全く同じように忠実であった「七十人」に属するほかの兄弟たちも、彼らと一しょになって外国伝道に旅立った。

聖徒たちのおもな集団が、暴徒たちの手のとどかないアイオワとイリノイに居を定めるや否や、十二使徒評議員会の大部分の会員は大英帝国諸島へ行く旅行に出発した。千八百三十九年七月二日、大管長会は旅行に出る使徒たち、そのほか行を共にする兄弟たちと会見し、彼らの働らきに関しいろいろの指示を与えた。そしてこのとき、教義、神権および伝道地における宣教師の態度等多くの重要な事項について論じられた。ジョセフ・スミス大管長はその指示を与えているうちに、十二使徒その他の人々に対し自己満足を用心すべきこと、寛容と知恵の徳を守るべきこと、慈善の原則を実行すべきことを教えた。もしもわれわれが兄弟たち、いな敵さえも、その悔い改めない前または赦しを乞わない前に赦すなら、「天の父なる神」もまたわれわれに対し同じように慈悲を与えてくださるにちがいないからである。ジョセフ・スミスはさらに彼らに教えて、彼らは人から教えを受けるためにつかわされるのではなくて人に教えるためにつかわされるのであるから、あらゆる人と交わる際に、誠実であり明朗であり率直であれと言った。そして、次のようなことばでその指示のむすびとした。

「わたしは今、神の国の奥義を知る鍵の一つをあなたがたにあげよう。それは永遠から（今に至るまで）神と共に存在している永遠の原則である。立ちあがって他人を非難し、教会員のあら探しをして彼らは道をはずれて居ると言う一方、自分は義しいのであると言っている人は、確かに知れ、その人こそ背教への大道を歩いているのであって、もし悔い改めなければ神の生きたもう如く（確実に）背教をするにちがいない。この原則は「しるしを求める者はよこしまな人である」と言ってイエスが示したもうた原則と同様に正しい。しかもその原則は永遠であって道をはずれず、天の柱の如く堅固である。あなたがたがしるしを求める人を見るときにはいつでもその人を「よこしまなる人」ときめることができるからである」。

二、神権に関する事項。　このころジョセフ・スミスはまた神権に関するいろいろなことも兄弟たちに教えたが、その中からの抜き書をかかげると次の通りである。

「神権は最初アダムに与えられ、そしてアダムは『大管長会』（の権能を）得てその鍵（複数）を代々保有した。アダムは世界が作られない前、創造のときにそれを得たのであった。……アダムは聖典に言ってある天使長ミカエルである。神権はそれからノアに与えられた。ノアはガブリエルである。ノアは神権においてはその権能アダムの次にあり、神に召されてその職につき、その当時の生きとし生けるすべてのものの父であり、彼に統治の権が与えられた。これらの人々（アダムとノア）は、まず地上において数々の鍵をもち、次に天において数々の鍵をもった。

「神権は永遠の原則であり、神と共に永遠（の過去）より存在し、齢（よわい）の始めなく年の終りなく、永遠の未来にいたるまで存在する。神権の鍵は、福音のつかわされるいずれのところにも天からもたらされなくてはならない。神権の鍵が天からあらわされるとき、それはアダムの権能による。

「ダニエルはその書（ダニエル書）の第七章（九節）で『日の老いたる者』のことを言っているが、『日の老いたる者』とは最も老いたる者、すなわち人類の祖アダム、すなわちミカエルのことである。この『日の老いたる者』はその子孫を呼び集めて彼らと共に会議を開き、「人の子」（イエス・キリスト）の来る時（再臨）のために備えをさせるであろう。彼（アダム）は人類の祖であって全人類の霊をつかさどり、かって神権の鍵を保有したすべての者はこの大会議のときアダムの前に立たなければならない。このことは、われわれの中のある者がこの活動の舞台を去る前に起るかも知れない。「人の子」（イエス・キリスト）は彼アダムの前に立ちたまい、彼は栄えと御国とを受けるのである。アダムはこのとき、宇宙の鍵を保つときわたされたキリストに対する「管理人の職」を引きわたすが、その後も人類の首長としての地位は依然として保有する。

「神権の鍵は最初アダムに与えられ、次に他の者に与えられた。アダムは彼の「管理人の職」について説明をしなければならないが、他の者はアダムに彼らの「管理人の職」について説明をしなくてはならない。

「神権は永遠である。「救い主」、「モーセ」、「エリヤ」の三人はかの山上において変貌をした際、ペテロ、ヤコブ、ヨハネの三人に神権の鍵を与えた。

「キリストは偉大なる大祭司であり、アダムはこれにつぐ」（『教会記録歴史』第三巻、三八五―八頁参照）。

三、十二使徒の手紙。　「大管長会」から彼らの責任を受けた後、十二使徒評議員会の会員たちはこれから働らく伝道地にむかって出発するに先立ち、教会の長老たちと広く散在している教会とすべての聖徒たちに手紙を寄せて、教えとなやみの時におけるはげましとを与えた。聖徒たちに寄せて彼らは次のように手紙を書いた。

「わたしたちはすべての兄弟たちに忠実であるようにはげましを与えたい。あなたがたはこれまでにこころみを受け、今なおこころみを受けている最中である。そしてこれらのこころみは、もしあなたがたが用心深くなかったならあなたがたの心をくさらせ、あなたがたにいやな気分を起させるであろう。しかし、今がこころみの時であることを思い起してもらいたい。間もなく勝利はわれわれのものとなるにちがいない。今は（あなたがたにとって）嘆きの時であるかも知れない。しかし、今度は喜びの時があるにちがいない。

今は（あなたがたにとって）悲しみの時であるかも知れない。しかし、間もなくわたしたちは主に会えるにちがいない。わたしたちの悲しみは喜びにかわり、だれもわたしたちから喜びをとりあげる者はない」。

また長老たちに寄せて彼らは次のように書いた。

「神はあなたがたを重要な役目に召したもうた。神はあなたがたに重い義務を負わせておいでになる。神はあなたがたを聖なる職に召して「いと高き神」の祭司たちとならせ、地上にある万国の民に福音のことばを伝える者とならせたもうた。それであるから、あなたがたの勤勉と、あなたがたの忍耐と忠実と、あなたがたの宣べ伝える教えの健全さと、（あなたがたが大神権をもっている間に）先立ってとなえ実践をする諸原則とに全人類の行く先がかかっている。あなたがたは、神の王国をひろめるために神が召したもうた人々である。神は人間の「身も霊も」引き受けて世話をする責任をあなたがたに任せたもうた。それであるから、あなたがたがこの（大神権）を受けたとき、あなたがたは天の使節となったのである。それで偉（おお）いなる神はあなたがたに忠実なれと命じたもう。あなたがたが忠実でないなら、あなたがたは選ばれないであろう。しかしながらあなたがたには『用意せよ。而して汝の今在るよりも一層尊き人たらしめよ。席に着きて汝の王冠を受けよ』と言われるであろう」。

四、宣教師の出発。　千八百三十九年七月七日、日曜日、コマースで開かれた集会で、ブリガム・ヤング、ジョンテイラー、ジョン・E・ページ、ウイルフォード・ウッドラフ、およびオルソン・ハイド等の長老は、各自の外国伝道へ出発するに先立って訣別の辞を述べた。そのあくる日（七月八日）、ジョン・テイラーおよびウィルフォード・ウッドラフの二人の長老は各自の伝道地へむけて旅立った。そして七月の二十八日（日曜日）、ミズーリの獄に長い間とじこめられていた後（ようやく）十日にコマースへ着いたパーレー・P・プラット長老は別れのことばを述べ、彼の逃走を助けた兄弟のオルソン・プラットも同じく別れのことばを述べた。八月の二十九日、パーレー・P・プラット、オルソン・プラットおよびハイラム・クラーク等の長老は伝道の旅に出るためコマースをあとにした。これにつずいて九月十八日、ブリガム・ヤング十二使徒会長およびヒーバー・C・キンボール長老がコマースを旅立った。そして、その三日後にジョージ・A・スミス、リューベン・ヘッドロックおよびテオドーア・ターレー等の長老がコマースを出た。当時十二使徒評議員会の会員であったウイリヤム・スミスはこの時行かなかった。また当時十二使徒の職に�按手聖任されていなかったウィラード・リチャーズは英国に居て、伝道部が開設されて以来ずっと留まっていた。またオルソン・ハイドとジョン・E・ページの二人の長老は、それから間もなく、パレスチナに伝道部を設けてユダヤ人の帰って来るためにパレスチナの地を主に捧げるよう特に任命を受けた。そしてデビド・W・パッテン死亡のために十二使徒会に一人の欠員を生じたが、この空席はライマン・ワイトが選ばれて千八百四十一年四月までに満たされた。

以上の兄弟たちが伝道のために外国へ旅立った当時の事情は、よく想像ができると思うが、きわめて悲惨であった。ヒーバー・C・キンボール長老はブリガム・ヤング会長と自分自身とが伝道旅行に出るときの事情を次のように報告している。

「九月十四日、ブリガム・ヤング会長は、英国伝道に行くため、モントローズの自宅を出た。（しかし）ブリガム・ヤング会長は当時ひどい病気をしていて、自宅から百五十メートルほど離れているミシシッピー川へ人手を借りずに行けなかった。そして川を越してから、イスラエル・バーローのうしろについて馬に乗り、わたしの家までやってきたが、そのまま十八日まで病気であった。ヤング会長は、生まれてやっと三週間たっただけの赤ん坊を病妻と共に家にのこしてきたが、そのほかの子供たちもみな病気であってお互いの世話をすることもできなかった。家族のうちの一人も一桶の水をくむために外へ行くことができず、またミズーリの暴徒にほとんど全部の持ち物をとられてしまったので、からだにつけるかえ着も持っていなかった。九月の十七日、メアリ・アン・ヤング姉妹は、出立の時までヤング兄弟の看護をし、なぐさめを与えるため、一人の若者をたのんでその車に彼女を乗せわたしの家までつれてきてもらった。

「九月十八日、チャールス・ハッバードが一台の馬車と一対の馬と共と一人の若者をわたしの家へよこした。わたしたちのトランクを数人の兄弟たちが馬車に乗せてくれた。そこで、わたしは自分の寝台のところへ行き病に臥して悪寒にふるえているわたしの妻の手をにぎってやったが、妻の側には二人の子供が同じく病気で寝ていた。わたしは妻と子供たちとをかき抱いて彼らに別れを告げた。病気でなかったのは幼いヒーバー・Pただひとりであったが、病人たちののどのかわきをいやすために、一度に数リットルの水をはこぶことさえやっとであった。

「わたしたちはやっとのことで馬車に乗りこみ、出発して岡を約五〇メートルほど下って行った。今わたしは、ほとんど死の手の中につかまれているかのような状態に家族たちをのこして出て行くとき、まったくわたしの心は胸の奥で消えうせてしまうようであった。わたしはとても堪えられないかのように感じた。そこで御者（ぎょしゃ）に車をとめるようにたのみ、ブリガム兄弟に言った。「これは相当にひどいねえ。どうだ、立ち上って一つ元気をつけてやろうじゃないか。」わたしたちは立ち上り、頭の上で帽子を三度ふりまわしながら叫んだ、「フレー、フレー、イスラエル！」。ヴィレートはこの声をききつけ、床から起き上って玄関口へ出てきた。（ながめると）彼女の顔には微笑が浮んでいた。ヴィレートとメアリ・アン・ヤングの二人はわたしたちに叫んで言った「さようなら、おたっしゃで！」わたしたちはあいさつを返し、御者（ぎょしゃ）に車を進めてくれと言った。それからあと、わたしはもう二三年会うことができないことをよく知っていたので、わたしの妻を病床にのこして行くかわりに、自分の力で立ち上ってくれた妻を目のあたりに見て満足に思い、喜びと感謝の念がわき上るのを覚えた（「ヒーバー・C・キンボールの伝記」二七五頁参照）。

伝道本部だより

バプテスマ　一九六四年五月

阿倍野
神野展光　高見沢和子
岩子　猛　上西国隆　山内洋子
増田雄司　金井幸技
小野寺幸子　河野富技　原　匡邦
尾立登世子　中川征子
佐々間富満　小川忠之　荒木正直
旭川
大北宣昭　永久悦郎　加藤真弓
清水紀行　潮崎広子　山川　施
福岡
山手　稔
江口喜行
甲府
岩田紀人
山下澄子　神田昭彦　菊地武史
八島　豊　中込謹一
広島
中村健治　百村典子
上井美代子　中込とよ　中元喜美子
古本弘子　三枝信子

岡町
北園エミ子
松尾鈴江
松崎妙子
奥谷美代子
清水みち子
滝本みどり
種谷紀昭
札幌
石川隆三
岩浅泰子
加藤真弓
小川正一
大谷光雄
照井臣子
吉田恒三
西の宮
桜井富士子
関　敬子
菅井洋子

東京中央
関　洋子
東京北
清水つね
吉田和夫
東京南
阿部　寧
林　謙
東京西
藤井康克
蜂谷秀雄
石渡敏子
佐々木洋司
谷川幸夫
島村律子
篠　光
仙台
渡部雄作
那覇
西銘　保
知念良尚

神権

阿倍野
坂本頼彦（長）
平山照久（長）
旭川
荒木調一（執）
木谷正尚（教）
三戸誠（執）
群馬
藤井重男（祭）
今井克躬（執）
河村勝（執）
小林英一（教）
黒沢猛（教）
真下宏一（祭）
ミヤガワ キヨシ（祭）
須賀基夫（執）
竹本正道（執）

広島
木本忠雄（長）
金沢
居村完治（教）
小林啓志（執）
渡辺重治（祭）
北野智元（長）
松本
平林定男（執）
室蘭
篠原好美（執）
菅野文雄（執）
名古屋
堀田徹（執）
工藤博幸（祭）
野村隆（執）
小栗政司（祭）
矢野信元（執）
青山宗平（長）
池田洋司（長）

白木守（長）
新潟
坂野昭（執）
西の宮
今岡洋祐（執）
神田康夫（教）
岡町
奥田稔（執）
坂本泰造（長）
岡山
宇山義郎（執）
栗井幹哉（執）
池田ユキオ（祭）
三の宮
稲垣篤一（執）
樽本正弘（執）
増田順一（長）
札幌
早川良樹（祭）
河合秀夫（教）
鈴木順一（教）
吉田英（長）

高杉保夫（祭）
仙台
中田力（長）
塩隆彦（長）
東京中央
鶴崎澄人（執）
橋本正明（祭）
落合勝美（祭）
東京東
古川義弘（教）
大島義和（執）
味田倶男（執）
山形
鈴木尚（祭）
稲村利明（執）
横浜
本田家策（執）
五代義宏（執）

中井敦（執）
普天間
ヒガ セイトク（執）
ミヤサト トモマサ（執）
モリヤマ ショスン（執）

示現

永遠の生命についてのその教え

神とキリストの示現及びサタンの勝利と敗北の意義

「教義と聖約」第76章を学ぶ

テキスト 「教義と聖約」76：1－49

扶助協会レッスン

神学＝「教義と聖約」

1964年10月第1週

序文

人並にその運命に就て予言者、ジョセフ・スミスが受けたすべての啓示の内で七十六章にくらべられるものはありません。末日聖徒の聖典を論じてウイルフォード・ウッドラフ大管長は次のような声明を致しました。

「私がジョセフ・スミスの口を通してなされたこれらの厳粛な永遠の宣言を読んだ時、私の心は天の父なる神を讃え、喜びと感謝で一ぱいでありました。私は私たちの誓約である教義と聖約ほど、曾て人類に与えられた内で最も厳粛な法典、神性な宣言はないと思います。単に示現だけを見ても啓示として私たちが曾て読んだ如何なる書物の如何なる啓示よりも多く光と真理を与えて居ります。それは私たちの現在の状態、私たちが何処から来たか、どうしてここに居るのか、何処に行くのかを、はっきりと理解させてくれます。如処なる人でもその啓示を通じて彼の役割と状態がどのようになるかを知ることが出来るでしょう。何となればすべての人は彼らの守るべき律法を知り、人がここで守る律法が彼らの来世の地位を決め、彼らはこれらの律法によって保存されそれに属する祝福を受けるで

しょうから。（説教集二二・一四六―一四七）

一八三二年二月一六日、この大いなる啓示を受けた日に予言者は主が彼に知らせたことに就ての彼自身の評価を記しております。この啓示の純粋さであります。

…その文書が永遠の世界の記録から写されたものであることを証明します。理想の卓越せる、言葉の純粋さ、行動の範囲、救いの世嗣が主の前に告白して跪くように完成の為の絶えざる忍耐、忠実な者への報い、罪人への罰、などすべてがあまりにも人間の狭い心を超越し、すべての忠実な人は〝それは神から来た〟と叫ばずには居られなくなるのであります。（教会歴史　一―二五二―二五三）

上述の声明は人が七十六章を読んだ時に、何をくみとることが出来るかを示しています人が予言者の時代にもあり又現在もある死後に就ての思想をこの啓示及びこれに関連する啓示に比較する時に来世に就ての霊感されない人の考えが、如何に狭く、単純なものであるかを知らされるでありましょう。人は人の将来を知っているお方から聞かずしてどうして実際に人の将来を知ることが出来ましょうか。人がどうして存在するのか？この人生に果して目的があるのであろうか？又人の運命、これらすべての問題が幾世紀にもわたって人の好奇心をそそったのでありました。大部分の人が彼らの生涯の或時にこれらの重要な問題に就て真剣に考えるのであります。

如何に受けたか

ジョセフ・スミスがシドニー・リグドンに手伝ってもらいながら、霊感によって聖書を改訳していた時に主は彼らの覚りの眼に手を触れたまわれたのです（教義と聖約　七六・一九）そして開かれた示現の内に彼らは栄光に輝いた永遠の世界と、暗黒の支配する滅亡の世界を見たのであります。

ヨハネ伝を翻訳している時五章二十九節が質問の動機となりその節に示された善人、悪人の復活に関する彼らの質問は主の返答をもたらしたのでありました。（同上十五節）この啓示は人の運命に就て真理をもたらして居ります。一般に〝キリスト教〟は、イエス・キリストを信じなかった人は天の祝福の望みを断たれ、キリストを知る機会の有無にかかわらず無信者には永遠の暗黒が待っていると教えて居ります。このような信じ方は少数の恵まれた人のみが救われるという全人類の復活に就て疑問を起させるでありましょう。悪人と善人に復活に就てこの啓示を通じて受けた豊かな真理は、世界に希望の光真の福音のメッセージをもたらしたのであります。

この啓示を受けた時の事に就ての或詳細な記事がフィロ・ディブル長老によって次のように記されて居ります。

〝オハイオ州のハイラムの〝ジョンソン父〟の家で教義と聖約に記録されている示現が与えられました。ジョセフとシドニーがみたまにみたされて天の開かれたのを見た時に、その部屋に他の人も居ました。恐らく十二人でその内に私も居り三分の二の時間、共に居りました。私は光栄を見て又その威力を感じましたが示現を見ませんでした。

彼らが見ている間の出来事、会話で記録されたもの（見又語られたことで記録されなかったものもある）の必要な部分を述べましょう。

暫くしてジョセフは窓から外の方を見つめながら〝私の見ているのが見えるかね？〟とたずねました。そして彼は何を見ているかを語りました。そこでシドニーは〝私もそれと同じ光景を見ます〟と答え彼が見たのを繰返して述べました。ジョセフは〝私も同じように見る〟と答えました。

このような対話が間隔を置いてその示現が

終る迄繰返されたのであります。そしてその全時間に亘って他の人々は誰も一言も語らなかったのであります。ジョセフとシドニー以外は誰も声も出さず、動きも私の見るところでは、その示現が終る迄恐らく約一時間に亘って彼らは手、足、関節すらも動かさなかったのであります。

ジョセフはその全時間に亘ってしっかりと静かに坐っていたがシドニーはぐったりと青ざめて明らかに綿のように疲れて居りました。それを見たジョセフはほえんで〝シドニーは私のようになれていない〟と言いました。（児童教育二七・三〇三―三〇四）

永遠の進歩

七十六章の最初の十節は忠実な者に約束された大いなる祝福であります。啓示はイエス・キリストの他に救主のないことの宣言を以て始められて居ります。そして彼をその救主として受入れる人々への確乎たるメッセージがそれに続いて居ります。それはイエス・キリストの知恵は無限で彼の道と目的は決して失敗することがないという啓示された真理に基いているのであります。（二―三節）

私たちと同様に主はこの世の生涯を過されたけれども永遠から永遠に同じであるということは真実であります。（四節）高められた者の終局の運命は永遠の進歩であって、終りまで義しく且つ真実に仕える者に保留されてあるのであります。ジョセフ・フィルディング・スミス会長が説明されているように。

〝……永遠から永遠とは霊界の存在から、今私たちが生きている、ためしの生涯を経て、再びそれに続く永遠の実在に戻ることであります。確かにこれは永遠でありまして私たちが復活したら決して死なないでありましょう。（救いの教義一・一二）

忠実に堪える決心をした者には神の道、その目的、王国のかくされた事に就て迄もその知識を増し加える約束があるのであります。この生涯に於て人は王国の奥義に就て、多くのことを学ぶことが出来ます。けれども人はここで学ぶべきことのほんのわずかしか学ばないのであります。

神とキリストの示現

〝示現〟を受けた理由（教義と聖約七六・一一―一八）に次いで再びジョセフ・スミスとシドニー・リグドンの眼は開かれ神の栄光を覚ったのであります。末日聖徒は世界中で最も豊かに祝福された民であります。神とその目的に就ての信仰でこのように多くの支持を持っている民は他にありません。一八二〇年の春に受けた最初の示現の雄大さに加えてこの啓示は私たちの時代の人が神性を見知った記念碑として立って居ります。神の王座を聖められた天使がとりまき、神を拝していたのであります。それから兄弟たちは末日の大いなる証は何であるかを記録して居ります。

〝さて、この子羊に就きて為されたる様々の証の挙句われらの為す最後の証はすなわち「主は実に生きたもう」こと是なり。われらは、彼がすなわち神の右に座したもうを見たり。また、御父の生みたもう独子なりと証したもう声を聞けり、すなわち諸々の世界は、彼の手により、彼の手を経て、また彼によりて先に作られ、また現に作られ、これに住む者たちも皆神より生れたる息子と娘なることを証したもう。（二二―二四節）

この証はジョセフ・スミスだけが受けたのではありません。二人が同じものを見たことはジョセフ・スミスの証が偽りであると主張する或人たちの偽りであることを証するものであります。何となれば聖文に次のように言われて居ります。

〝すべての事がらは、二人か三人の証人の証言によって確定する〟（コリント後一三・一）

この証から多くのことが学ばれます。

㈠ ジョセフ・スミスは詐欺者ではない。彼は神に就ての彼の知識と、その永遠の目的を守って洵教したのであります。

㈡ この地上の住民は神の息子であります。

㈢ この世の私たちが神の子供たちであるばかりでなく他の世界にも神の霊の子たちが住んで居るのであります。

㈣ 人々の間に平和と理解をもたらす兄弟愛の真の土台はこの知識の上に立てられねばなりません。

㈤ 私たちがなぜ福音の原則に従はねばならないか、そのほんとうの理解は私たちの神との関係及びこの生涯の目的の中に見出されたのであります。

過去

七十六章は将来と同様に過去も啓示されました。（一二―一三節）次に示現の内にこの兄弟たちはルシフェルが父と子に反抗して堕落した者となったのを見ました。（二五―二七節）彼は父と子から王国を奪おうとした者として知られて居ります。（教義と聖約七六・二八―二九、三六―三八）彼の目的は義に従う者に勝つことでありました。ルシフェルの努力は戦いの言葉の内に又、すべての方向からの攻撃の内に見られます。〝彼らを攻め囲めり〟（二九節）サタンは只人の心の中だけに実在するという考えは、この啓示によって否定されました。予言長とシドニー・リグドンの証はルシフェルは実際に霊であって、その影響は悪を感じその使命は破壊し退歩に導き聖徒に打克ち彼の誘惑に服する者をすべて彼自身のものであると主張します。（ニーファイ第二書、二八章）

サタンの勝利　滅亡の子

七十六章（三〇―三九節）は滅亡の子として知られている組に就ての二つの質問に答えて居ます、滅亡の子とは誰でしょうか？　彼らの運命はどうでしょうか？　最初の質問に就て、啓示は彼らは神の能力を知って故意にそれを否定したと言っています。（三一節）

人がみたまを受けて神の存在を知り、昇栄の原則をはっきり理解してからこの知識を否定したならば彼は彼に天を開いた聖霊に対し罪を犯すのであります。これは聖霊を冒瀆することであり救主を公然と辱しめることであります。そのような人は彼自身に永遠の罰をもたらすものであります（三一―三五節）イエスは彼にさからう罪をも含めて、すべての罪は赦されるが聖霊にさからう罪は赦されないと言いました（マタイ伝一二・三一―三二）どうしてそうなんでしょうか？　示現又は夢に御子が現れたとしても聖霊の証ほど強く人の心を印象づけるものではありません。心に語るものはみたまで、それは示現よりも大きな確信を与えます。それですから罰も大きいのです。（スミス・ジョセフ・フィルディング、イムプルーヴメント・エラ一九五五年七月（四九四―四九五頁）この組に就て予言者ジョセフ・スミスは次のように言って居ります。

〝聖霊にさからう罪を除いてすべての罪は赦されます。何となればイエスは滅亡の子を除いてすべての人を赦すからであります。人はどのようにして赦されない罪を犯すでしょうか？　天が開かれて聖霊を受け、神を知って後に彼にさからう罪を犯すことです。聖霊にさからう罪を犯してからは彼の為に悔改めはないのであります。彼は太陽を見ていながらそれが光っていないと言い又天が彼に開かれ真理を見ていながら救いの計画を否定し、イエス・キリストを否定するようになるのであります。末日聖徒イエス・キリスト教会の脅教の多くの場合がこのようにして生じたのであります。（予言者、ジョセフ・スミスの教

え三五八頁）

滅びの子の運命

既に指摘したように滅亡の子は、この世に於ても、また来るべき世に於ても決して赦されないのであります（教義と聖約七六・三四）本教課で論じられている滅亡の子たちは、この世に肉体をとって生れて来た者を言うのであって前世に於てルシフェルに従った肉体をとらない霊たちを指すのではないことを記憶すべきであります。肉体をとった滅亡の子及び霊の滅亡の子、どちらも、完全に永遠に神の御前から追放される第二の死を受けるのであります。（ジョセフ・スミスの教え二四頁）アダムは私たちが犯すように罪を犯した時に霊的な死を受けたのであります。けれども滅亡の子の受けた霊的な死又は第二の死は聖霊を冒瀆したことによってもたらされたものであります。この罪は義まで含まれていることにも死をもたらします。（教義と聖約二九・四一）この人たちには悔改めは不可能であります。何となれば、もはやキリストの贖いは彼らの救いに無効なので彼らはその罪から免れる能力を失ったからであります。

七十六章の三十八節及び三十九節の誤解から或者な滅亡の子たちは、復活の時に肉体を受けないであろうと信じて居ります。これは主が復活に就て啓示されたところと一致しません。（一六―一七節）七十六章の三十八節及び三十九節を解釈してジョージ・キュー・カノン副管長は次のように述べて居ります。

これらの節を又特にその前の節を注意して読む時に主は滅亡の子たちを復活から取除いてはいない。ただ第二の死がその上に力を奮う唯一の者であることを参照されようとして居られることは明らかであります。〝これ、この世のいまだ造られざりし前に御父の懐にありこの世に来りて殺されたまいし子羊の勝利と栄光とに由り、すべて他の者たちは死せる者の復活によりて呼び出ださるればなり〟この除外された者たちの上には特に第二の死が力を奮うことが出来るのであり又〝彼らは神の怒りによる苦痛を受けし後、主の時節に及びても贖いを受けざる唯一の者たちなり〟（少年教育、一九〇〇年二月十五日三五・一二三）

光栄なき王国

末日聖徒は、すべての人が復活してから唯三つの王国があると考えて居ります。何となれば特に聖文の中に三つの光栄の王国が指摘されてありますから（コリント前一五・四〇―四二）主は滅亡の子の居る処も、王国として知られるけれどもそこには光栄がないと啓示されました。（教義と聖約）

その王国の実際の状態は知られて居ません。それが堪え続けねばならない処であることは、明らかであります。生きている人で誰もこの組の運命を知っている人は居りません。何となれば主はその罰を受ける者だけがその果てを、広さ、高さ、深さ、みじめさを理解するであろうと言われたからであります（同上、七六・四四―四八）予言者の言葉に注目して見ましょう。

〝ヒューレットやその他の兄弟たちに言いなさい。主は悪魔とその天使又は滅亡の子が回復されると述べることを主は決してお許しになられなかった。何となれば彼らの状態は、そうなった者にしか知らされていないからである。従って、この教義を教える者は主のみたまから受けているのではない。誠にオリヴァ兄弟はそれは悪魔の教義であると宣言した。我々はこの教義をシオンで二度と教えないように命ずる〟（教会歴史録一・三六六）

サタンの敗北

滅亡の子となる者は、わずかしか居ないけれどもサタンはその少数の者に打克つのであ

ります。言いかえれば莫大な人類に対する彼の勝利はほんの一部であります。何となれば残りのすべての者は彼らの為に備えられた王国の何れかの段階に入るでしょうから。多くの者が彼らの神の息子及び娘となる完全な可能性を自覚して居りません。神の栄光に就てわずかしか知らないのです、復活の時に課せられる審判は、その為した行為によって審かれるので正しいでしょう（教義と聖約一九・三、一二八・八）

天からの啓示がなく数世記に亘って人の信条がつくられて行った時、神は罪人を永遠の刑罰の地獄に永久に追放したと見なしました。このことは人類の大部分に生じるものと見なされました。只天国と地獄だけがあって不死不滅又は復活に備える中間の状態のない考えは救いの教義に於て、イエス・キリストの福音に一致しません。救われた者は天国に浮び上がるけれども罪人は地獄に落ちて永遠に失われるのであります。（教義と聖約註解四五三頁）

福音の計画

この間違った、又神の義に就ての不正な概念と対照して末日聖徒イエス・キリスト教会のメッセージは天の父はそのすべての子供たちのことを思い、彼らが彼の光栄の全部でなくても一部でも受ける道を備えて居られるという教義を宣言して居ります。けれどもこれは只彼らが現世又は霊界の何れを問わず神性な律法に従ってのみもたらされるのであります。私たちは次のように学びます。

〝その時天より声ありてわれらに証せる福音すなわち喜びの音信とはかくの如し、それ、イエスは世に来りたもうて世のため十字架に附けられ、世の罪を負い、世を聖くし、あらゆる不義を潔めたもう。これ、彼が御父より手の中にわたされて造りしあらゆるものを彼によりて救わんためなり。彼は御父の栄光を輝かし、彼の手になるすべてのわざを救うなり。ただ「滅亡の子」たちを除く。そは御父が御子を顕したまいし後これを受け入れざるを以てなり。この故に、彼は「滅亡の子」たちを除くほかすべてのものを救いたもう〟（教義と聖約七六・四〇—四四）

考察の為の質問

一、何事が七十六章をもたらした主に対する予言者の質問の動機となりましたか？

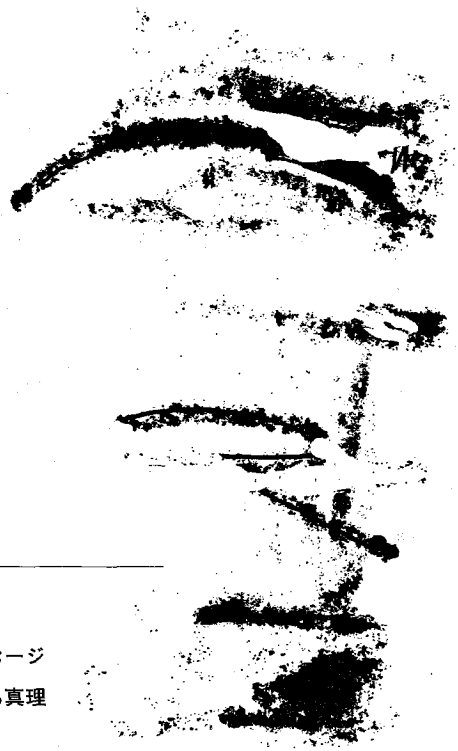
二、神の実在に就てこの章で如何に優秀な証拠が与えられていますか？　私たちの神及び神との関係の理解を七十六章（二二—二四）から深めなさい。

三、七十六章の中で過去と将来の情報を包むことを何処に設けてありますか。

四、サタンの努力はどの程度、効を奏するかに就て討論しなさい。

審判は
ただわれひとりに
任せよ。
そは
審くことは
わがことにして
われ
応報を与えん

教義と聖約 82：23



メッセージ第57

扶助協会レッスン　訪問教師のメッセージ

「教義と聖約」にもとずいて実践する真理

1964年10月第1週

目的　他人を審こうとする誘惑を常に良心的に避けることの大切なことを強調する

すぐ人を審こうとする傾向は私たち人間の共通した欠点であります。他人の行為を見てすぐその動機とか意向を結論してしまうのは誠に容易なことであります。従って私たちは皆、資格のない、正しくない、あやまった速断に陥りがちであります。これが私たちが常に注告されて来た人間の弱点であります。主が言って居られるように、彼のみが人間の行為の理由を知り、人間の心を知っているので私たちは審くことを彼に任せるべきであります。

私たちの審く性癖に就てマッケイ大管長は次のような話を述べられました。

貧しいフランスの一老婦人がセーヌ河畔を歩いて居りました。彼女はすり切れたショールを肩に巻いて居りました。彼女はかがんで何物かを拾い上げショールの中に入れました。少し遠くの方で警察官がこれを見て居りました。彼は急いで彼女に近より「ショールの中に持っている物を見せなさい」と言いました。

彼女はガラスのかけらを取出して言いまし

た。「これはガラスのかけらです。私は、はだしの子供がけがすると危いと思って拾ったのです」。

〝あやまって彼女を審いた警察官に、如何によい教課でありましょうか、私は彼が自己の義務を果したことを知って居りますが、彼女が立派な行為をなしたのに彼は彼女が何か自分のものでない物を取ったと思ったのでした。

（幸福への道一四八頁）

私たちすべてにとって何とよいレッスンでありましょうか、私たちは隣人の行為やら態度を非難しがちですが、それが如何に屢々私たちの認識不足からあやまった動機又は理由によっていることでしょうか。私たちは私たちの限られた知識で他人の行為の動機となっているその環境を知ることは不可能であります。唯主のみが人間の行為の動機となっている素質、考え、必要さ及び希望を知って居られるのであります。詩篇の中に私たちは次の聖句を読みます。

〝しかし主はとこしえに、み位に座し、
さばきのために、みくらを設けられました。
主は正義をもって世界をさばき
公平をもってもろもろの民をさばかれます〟詩篇九・七―八

主は〝人をさばくな。自分がさばかれないためである〟（マタイ伝七・一）と言われました。聖文は私たちが審きを以て人を計る時私たちも審かれることを繰返して強調して居ります。

私たちの人を審く傾向を克服する最上の道は、他人の欠点を見るよりも長所を見る素晴らしい習慣をつくることであることは疑いありません。

或人が自分に近く交際する人の批判をし、不平をこぼす習慣に陥って居りました。友人とその問題に就て議論している時に彼はたずねられました。〝貴方と交際する人は、何かよい素質を持っていませんか？〟〝はい彼は人のあやまちに対して寛容です〟と彼は答えました。

この評価は彼をして他人のよい素質を考えるようにさせ始めました。彼の心に否定的な人のあらさがしをする考えが入っ来ようとした時彼は直ちにそれに代るよい素質を見るように努めました。その結果この接近は、直ぐその友人の持っている多くのよい素質をあらわしたのであります。

人のあらさがしをし、他人を審く結果の一つとして、否定的な見方となりそれが私たちの夢を曇らせ、心をむしばむのであります。他面、他人の長所を見ることは肯定的な接近であり、私たち自身の人格の内に善良さをあらわし向上させるものであります。

ジェー・ルーベン・クラーク・ジュニヤ福管長は審きを主に任せることの重要さ、又主はめぐみと愛を以て私たちを審くことを強調して次のように言って居られます。

〝私は審判の日には、私たちの為したすべてのよい行いは義の精神と律法の支配の下に完全な報酬を受けると感じ、又私たちの為したすべての悪い行いは、めぐみと愛を添えた永遠の正義の原則を以て最小限に罰せられるであろうと感じます〟（クラーク・ジェー・ルーベン・ジュニヤ、一九五八年四月大会報告四八―四九頁）

幸福な生活を形づくる

幸福とは何であるか、又それを達成するための或基礎は何であるかを決定する。

扶助協会レッスン・仕事会・1964年10月の第2週

考察その一　「序論」

末日聖徒の婦人たちにとって幸福を追求することに就て学ぶ以上に、よい勉学があるでしょうか?、妻として、母として、祖母として、姉妹として、隣人として、家庭に於て幸福の種を芽ばえさせ、育て上げるような状態をつくり出すことは彼らの責任であり義務であります。この幸福の達成は貴い使命であります。ニーハイはモルモン経のニーファイ第二書の中で末日聖徒たちに最も親しまれている声明をしました。〝人類が現世に在るのは幸福を得んためである〟今日予言者は、この原則を繰返して居ります。ジョセフ・スミスは〝幸福は、我々人生の目的であり計画である〟と述べ、ブリガム・ヤングは〝我々自身を幸福にすることは、人間の存在の偉大な計画に協力することである〟とつけ加えて居ります。ジョン・テーラーは当時の人に〝人生と幸福の追求はすべての知識人の関心すべき事である〟と告げました。又マッケイ大管長も〝幸福は生涯の目的と計画である〟と言いました。

末日聖徒は私たちが肉体を与えられ、試錬と誘惑にみちた生涯の挑戦を受入れ又善悪を選ぶ自由意志を与えられた時、私たちは又同様に、完全な無制限な幸福を達成する機会をも与えられたのであります。

今年の私たちの家庭経営の討議に於て、私たちは私たち自身及び私たちの家族の為に、予言者が記したところの幸福と喜びに私たちを導くような教課課程を計画したのであります。

この地上で母親ほど家庭に幸福をもたらす大きな機会と責任を持った者は居りません。何となれば彼女を通じて家庭は幸福に満たされるからであります。彼女の燈火から他の者は彼らの光をとるのであります。毎日彼女はその家庭から家族の者たちを送り出す時、元

気づける言葉と輝かしい希望と約束を以て送る機会を持っているのであります。そして夜には彼女は平和と静けさと暖さと愛を以て彼らを迎えることが出来るのであります。

ベンジャミン・フランクリンは、どんな還境にあっても、いつも元気でにこにこしている或建築作業者の話を告げて居ります。その作業者が常に幸福感に満たされている秘訣をたずねられた時、彼は答えました。「別に秘訣があるわけではありません。私は最上の妻を持って居り、私が家に帰ると彼女はほほえみと口づけを以て私を迎えてくれます……彼女は数えきれない程の多くのささいな事を以て私を喜ばせてくれ、おかげで私は誰に対しても不親切な言葉をはくようなことはなく、自分の心にそれを見出すここは出来ないのです」。

他の夫はそれをこのように述べています。

〝私は玄関の戸に鍵を入れると肩の荷が下りたように感じます。そして戸が閉められると私は家庭に在ることを知ります。私は闘争の世界から解放されたのです。私の妻が内からハローと呼びかけると閉められた戸の中で奇蹟が起こります〟

アブラハム・リンカーンは彼の家庭に就て言いました。〝ここに私の心が、幸福が、家があります。この内で明るい窓は私の愛であり希望であり、生命であります。敷居を越える迄は平和は私の同伴者です〟

家庭が幸福の泉であることは疑いありません。若しもお母さんが幸福ならば全家族が幸福でその家庭は彼らにとって世界中で最も幸福な場所となるのであります。

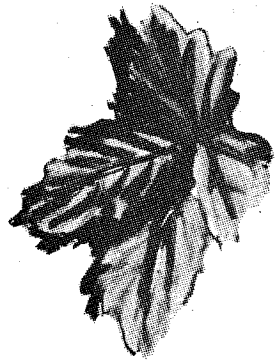
今日、私たちは家庭に幸福をもたらすような仕事をしましょう。幸福でなければならないのは今です。幸福であるべき処はここです そして私たちは皆心がけ次第で幸福になるのです。

今、私たちは幸福に感じていようといまいと、その言葉に行為に幸福であるように致しましょう。今この仕事会での会話にそれを反映させましょう。その調子に、内容に、この仕事会での動作に幸福が反映されねばなりません。働らけば働らく程、より大きな完成に達し、より一層の喜びがもたらされるのです 他人を敬い親切にしてあげることは喜びを増すものです。創意工夫(仕事会の二つの目的)は幸福の火を燃え上らせます。価値ある計画に参加することは、常に見物しているよりも幸福をもたらします。

今日成功したらこの態度を、続く数週間に亘って私たちの家庭内に拡げましょう。家事が最も貴い職業であると信じて喜びを以て働らき夫、子供、孫と共に楽しみ、悪を思はずその祝福に感謝し常に隣人と協力して社会に奉仕するような生活を致しましょう。そして何にもまして、私たちは毎日、他人を援けるようにしましょう。毎朝、確実に太陽が昇るように、幸福への道は他人を幸福にすることであります。

幸福は幸福を生じます。若しも私たちが幸福そうに生活しているなら、そしてその幸福感が表情から溢れ出ているなら、その幸福は周囲の人に移って行きます。

若しも私たちが正しい祝福を望み、それに相当する価値ある生活をするならば私たちは必ずそれを受けるのであります。共に幸福に祝福される生活を致しましょう。



聖書文学の鑑賞について

聖書を文学として研究すること によって得られる価値を示す

扶助協会レッスン・文学　一九六四年十月第三週

（クラスの指導者は、この学課で聖書は単に文学として見られているだけであって、神学上の疑問を解こうとしている計画はすこしもないことをいつも念頭に置かなくてはならない）。

㈠　聖書を文学として研究しなくてはならないわけ。

まず第一に、聖書を文学として研究しなくてはならないというのは、聖書の文学的研究が聖書を正しく霊的に解釈するのになくてならない助けであるからであります。或る作家は「聖書の各文学的部門の意味が全体として明瞭にまた自然に解釈される時こそ、安全に一層深い霊的解釈へ進んで行くことができるのである」と言いました。それはともかく、聖書は本当にほかの傑作に見られるいろいろな価値をもっています。それは聖書が文学上の最大の傑作であると認められているからであります。

サー・ワルター・スコットはこの世を去る数日前にその養子のロックハルトに向い「あの本から読んでくれ」と言いました。「どの本ですか」と彼がたずねますと、「どの本だって？聞くまでもないことさ、本当の本は一冊だけだ」と多くの書物をあらわしたこの偉大な作家は答えました。

しかし（本当のところ）聖書は一冊の本以上のものであります。聖書は実に五十六のちがった書物を一つに集めた図書館でありますが、それにもかかわらずこの五十六の書物がみな一つの文学に織り成されています。この偉大な傑作（である聖書）は多くの宝をその中にもっています。第一に、聖書を読めば文明の進歩発達を一目に見わたすことができます。また聖書は地球の起原から説き起して、多くの国民の起りと、ある特別な民（イスラエル）の発展とそれが国民としての生活をあらわして行くこと、その興亡、そのギリシャおよびローマ文明との接触等を描写している宗教的歴史的の記録であります。

第二に、聖書は人間の性質をほかにくらべるもののないほど（てってい的に）あらわして居り、また人間の中にある最善のものを発展させる力をもっています。それで聖書は「人間性に関する最良の教科書」であると言われています。またこれと別にある作家は「聖書について完全な知識をもっている人はだれでも本当に教育のある人であると言われるであろう。聖書に関する学問や教養以外の学問や教養は、それがどのように広くまた気品の高いものであっても、ヨーロッパ人やアメリカ人の中では聖書の学問や教養に正しくとって代ることはできない。西洋文明は聖書にもとずいている。西洋人の考えも知恵も哲学も文学も美術も理想もことごとく聖書にも

とずいている。聖書以外の書物をみな束にしてもその影響ははるかにおよばない。聖書は神性と人間性とに関する啓示である……。私は男女に対する大学教育（の価値）を完全に信じているが、大学課程を受けずに聖書の知識を得る方が、大学課程を受けても聖書の知識のないよりもはるかに大切であると信じている。聖書の中には深い意味のある思想が美しくあらわしてあり、少年少女成年男女の性格が、どのような現代小説家や現代劇作家の作品よりももっと正確にえがかれているからである。あなたがたは聖書を読むことによって、ニューヨークに住まうことによるよりももっと多くのことを人間性について知ることができる」と言いました。

聖書の物語の中にある第三の宝は、人間生活の中における最も立派な生活、すなわち二千年後の今になってもその教えに従うなら、個人ばかりでなく国々さえも（その性質を）変えるにちがいない「キリストの生活」であります。

第四はこの偉大な書物（聖書）が提供している純粋な文学（的部門）であります。聖書はあらゆる時代の最大文学であってその中にはことわざ、評論、演説、短い話、詩、劇そのほかあらゆる型式の文学が含まれています聖書は一つの文学として私たちの知的眼界をひろげ、情緒経験をゆたかにし、倫理標準を高め、そのうえその文体のみりょくと美しさに喜ばせてくれます。

聖書はまことにほかの文学の及びもつかない影響力をもっています。聖書から霊感を受けて、多くの偉大な劇や小説や叙情詩やその他の型式の文学があらわれました。ラシーヌの悲劇「アタリエ」、ミルトンの「失楽園」、「回復された楽園」、「争い好きのサムソン」、ブラウニングの「サウル」、トーマス・マンの「ジョセフとその兄弟たち」その他の小説は、聖書にもとずいても聖書から霊感を受けても書かれた二・三の文学的傑作にすぎません。聖書から完全に影響されて書かれたこれらの作品につけ加えて、聖書にもとずく隠喩やことばのあやを通して、聖書のことばや文体の美しさに、影響されている作品は無数にあります。ダンテはその「神曲」の中で何百ぺんも聖書に言及しています。またシェークスピーヤそのほか多くの人の作品は聖書の影響をくり返し反映しています。

文学に及ぼす聖書の影響は、その他の芸術に於ても同じことであります。ミラノにあるダヴィンチの名画「最後の晩餐」、ヴァチカンのシスティン教会堂にある「最後の審判」、ローマのサン・ピエトロにあるモーセの像など、だれも聞いて知っています。まったく、聖書の中にあることをテーマにした作品は文字通り無数にあります。エレーレ、ベルリニファブリアノ、モレルリ、フェラリおよびサッソフェラト等の名匠が画いた美しい、マドンナ、キリストの生涯に霊感を得て画かれたムリロ、ダヴィンチ、チシャン、ラファエルその他の人々の名画「聖家族」、「最後の晩餐」、「十字架処刑」、「変貌」などは、これらの名画をえがくに当って与えられた聖書の深い影響を示しています。またこれと同じいちじるしい例は彫刻の分野にも見られるでしょう。ローマのサン・ピエトロにあるミケランジェロ作のモーセの像についてはすでに述べましたが、（この同じ）ローマのサン・ピエトロには「敬けん」と名づける彼（ミケランジェロ）の美しい彫像があります。これはイエスの母（マリヤ）が十字架で処刑されたイエスの体を抱きかかえている像であります。世界中には昔の巨匠による有名な作品だけでなく、近代の巨匠による同じような有名な作品がたくさんあります。これらの中にはトルヴ

アルトセンの作である「キリスト」と「使徒等」があります。絵画彫刻だけでなく音楽の部門にも多数の作品が提供されていて、だれでもヘンデルの「メシヤ」を愛しています。また多数の聖歌や讃美歌の歌詞は、聖句の中から引用されています。それでありますから聖書からひじょうな影響を受けているこれらの芸術から最も多くのものを受けるためにはこれらの芸術に霊感を与えた文学（すなわち聖書の文学）をぜひ知る必要があります。

㈡　文学として聖書を研究する方法。

これまで、文学として聖書を研究する多くの方法をいろいろの著者が提供しています。聖書はそれをつくっている各書ごとに、一つ一つを独立した書として、考えることができます。一つ一つのちがった書はそれ自身本質的の価値をもっています。これらの書は、それらの文体によって分類するべきでありますそして、それらの異なった文学的の価値を強調しなくてはなりません。たとえば、一つ一つの書が過去のものを貯わえているか、私たちの前に何か理想をかかげているか、人間性にもっと深い洞察を与えるかどうかなどをたずねてみなくてはなりません。

または、聖書は一つの大きな完成した書物すなわち選ばれた民（イスラエル）の伝記であって、この歴史の骨組の中に多くの小さな単位たとえば短い話、劇詩、手っとり早く言えば、あらゆる型式の文学を含んでいる一つの書として研究することができるでしょう。

しかしながら、聖書文学の研究に着手する前にその研究に関係している背景やその他の面をよく考えてみなくてはならないことはもちろんであります。

レッスンの補助。

㈠聖書から霊感を受けた文学上の作品で、あなたの知っているもののいくつかを簡単に論じてください。

㈡聖書から霊感を受けた絵画または彫像の画を見せて、その芸術家についていちじるしい事実を話してください。

㈢聖書からのすぐれた引用句を読んで、その文学上の功績を論じてください。

神の律法の生活への応用

宗教と生活は一つであり、又そうでなければならない。――――目的

扶助協会レッスン
社会科学
「神の律法と教会制度」
教会制度の機能
一九六四年十月第四週

「そして、御言を行う人になりなさい。おのれを欺いて、ただ聞くだけの者となってはいけない」（ヤコブ書　一・二十二）

「わが律法を受けてこれを行う者はすなわちわが弟子にして、わが律法を受けたりと言いてこれを行わざる者は、わが弟子にあらず……」（教教義と聖約　四十一・五）

これらの聖句は演説者が好んで引用するものあります。あまり屢々使われるので、これらは殆ど空念仏同様になってしまいました。そして聞く人たちの生活に何ら積極的な反響を起さなかったのであります。

英知、自発的行為

キリストの行為は彼の生命を与える最高の犠牲に於てすら自発的でありました。

〝だれかが、わたしからそれを取り去るのではない。わたしが自分からそれを捨てるのである〟（ヨハネ伝　十・十八）

この時も又他の場合にも救主は天父の御意志を自覚して居られました。彼のすべての行為は真理と義によって命ぜられる神の計画の線にそって居り、人に完全な模範を示そうとするものであります。

正しい生活の原則は善悪を知って善を選ぶ自発的行為であります。恐怖、迷信、又は無知に立脚する行為は最高の栄に高められることなく又完成を充分に自覚することも出来ません。

完全な形は行為を含んでいる

救主の生涯は完全に彼の教えに一致する行為でありました。子供の時でさえ彼は御父の仕事にたずさわることの必要さを指摘しました（ルカ伝二・四十九）彼の生涯を振返って見る時に彼自身の教えをその実生活にあてはめている点が多く見られます。彼の地上に於ける活動の結論として又アメリカ大陸のニーファイ人に現れた時に於て、御父が人々に次のように云った時キリストのこの地上に於ける生涯は受入れられたのであります。

〝わが喜ぶ愛子を見よ。われはこれに由りてすでにわが名の栄光を示しぬ。わが愛子に聞け〟（ニーファイ第三書　十一・七）

救主はこのようにして私たちの従うべき模範となったのであります。単にメッセージを伝え真理を教えただけでは御父に受入れられなかったでしょう。それには永遠の生命の原則を日常の生活にあてはめねばなりません。彼は、第一と第二の誡命—神を愛し隣人を愛することを現実にためされました。彼は奉仕を強調しました。

キリストは成長するにつれて人々と共に普通の生活をしました。彼は教会の集会に出席し、人々と共に仕事に従事し又家族の一員ともなりました。彼の母はその心に思いめぐらしたのでした（ルカ伝二・十九）すべてのことが彼の神性と結びついて生じたのでした。何となれば彼は神の子でありましたから。

指導精神の重要性

指導者としての、キリストの模範は全人類に、特にこの末日の神権時代の教会の為によい手本を示しました。彼はすべての人の悲しみと苦しみを知っていました。彼は病人を癒し、死人を起し人々が物質的に精神的に闘っているのに助言を与えました。彼は人間の大きな弱点の試みに自ら立ち権力と財力にあこがれること、食欲、神の権能を用いる時の謙遜さと信仰のためしを受けたのであります。

救主の教えに対する彼の生きた証がこの教課の最も大切な点であります。彼の教えと、それに生活する単純さが教会の会員をして彼の模範に従えるようにしているのであります。教会制度の効果的な機能は会員指導者の肩にあるのであります。会員各人の責任は神性な指導精神の模範を備えることであります。その為に本質的なことはキリストがその生涯で身を以て示した大きな原則に献身する意識であります。

ラッジャー・クラウソン会長は曾て次のように言いました。神権者が神権にふさわしい生活をするなら教会は急速に発展し、彼らがその責任にひるむ時教会の進歩は遅れる〟（ウイッオー　神権と教会制度　百十一頁）

教会制度は私たちが知っているように神権又は神の能力がそれを通じて作用するところの機構でありますが教会制度の適当な効果的作用は、それに含まれている人々の義の程度によっているのであります。如何なる外面の装飾もこれに代ることは出来ません。

指導精神の定義

指導精神は教会組織活動成功の鍵であります。指導者とはよく見透し、組織し、活気づける人であります。はっきり言うなれば指導者はビジョンを持つべきであります。その進むべ道の関連性、将来の見透しなどに就て広い見識と想像力を持たねばなりません。彼は組織をしてその目的に応じれるように発展させることが出来、彼のグループの人たちが活気づくように自ら活動的でなければなりません。末日聖徒イエス・キリスト教会に於ては、指導者は神と交通して彼の特別な任命に就ての導きを受ける霊的な資質をも持たねばなりません。

教会内での大いなる指導精神は自己の召しの能力を可能性を会員に対して何が出来るか又一面それが地上に於ける神の王国を如何に建設するものであるかと言うことに結びつけて自覚することから生じます。教会内の真の指導者は彼の任命又は召しを、象徴として見ず、グループの為に彼の才能を奉仕する挑戦と見なします。彼の動機は愛でありグループを、教会の目的、完成と昇栄に導く為に献身

するのであります。

上述の指導精神は強制又は暴力に基いていません。〝それは説服と堅忍と柔和と温情と偽らざる愛とによっています〟（教義と聖約一二一・四一）これは、救主の指導精神を述べています。既に指摘したように、イエスは言葉の実行者であります。教会の指導者はその生活がキリストの模範に一致した会員でなければなりません。

決心と真の善行

指導的立場にある人は、その日常生活に於て、福音の原則の効果的な証拠を、会員たちに見せ適切な模範を示すように期待されますそれにもかかわらず各人は神性な助言に決心したことに責任を負うべきであります。

人間のすべての行動に於て、仕事に、リクレーションに、学校に家族又は教会に於ける正しい生活の規則は同一であります。

人の模範的な生活の真の価値に立脚して決心がなされるのです。真の善行は善悪を知る完全な知識に基いて善を選ぶ決心をすることにより現されます。何が正しいか善であるかに就て、世の文化、文明の世界はいろいろ異った意見を持っていますが神の啓示には何が正しいか又真理であるかに就て疑問の余地がありません。神はすべての正しい事、善い事、真理の作者であります。前の教課に於て既に指摘しましたように啓示又は神の律法は創られた人間が自己の選びによってその能力の最高に達することが出来るように指示として与えられた創造者の知恵又は助言であります。

正しいこと又は善いことはその解釈し方によるとかそれは方便であり又知的に正当化したものであると論ずる人が居ます。これらの多くは自分の行いに対する良心の苛責から逃れる為に合理化しようとする者であります。

善行（徳）は一方面の行為に限られたものではありません。それは正、不正又は善悪に関する限りすべての私たちの決定に適用されるのであります。徳の形は人が毎日、なす多くの決定から形成されるのであります。

選択に含まれている意味

問題にぶつかることは生活の風味であります。決定をすることは個人の存在の証拠であります。私たちは目ざめている瞬間瞬間に決定することを要求されて居ります。自由と私たち自らが正しく決定することはねぶみ出来ない遺産であり祝福であります。如何なる団体の会員になろうとする場合でもその人の決定はその団体によって規制され、少くともその団体の価値又は標準に順応せねばならないのであります。教会の会員たる主張もこの健全な原則に立脚して居ります。

教会の標準は、家族関係にせよ、又社交方面にしろ、又仕事の分野に於ても又教会の奉仕活動に参加する場合でも、すべての会員に対して同じであります。王国に受入れられた会員の行為は愛がその動機となって居り、知恵によって導かれ、義と考慮と親切によって練られていなければなりません。彼は他人を進歩させようとの心からなる願いを以て彼の奉仕を完成させねばなりません。

福音に生活する

キューリー夫人はラジュームを発見し、原鉱石からそれを抽出する方法を適用した有名な科学者であります。彼女はこの貴重な金属の最初の一オンスを確保出来たのでありました。そのドルに見積った価値は想像もつかない程であり彼女は貧しかったけれどもその発

見したものを人類の福祉に捧げてしまったのでした。その一オンスのラジュームを彼女は病人の為に使うように病院に寄贈したのですがこれは人類の福祉の為の真の奉仕の模範であります。

このような献身的な奉仕は多くの分野に於て見出されます。又それ程目だたない小さなことはあらゆる分野で毎日の生活に見られます。このような模範は人間がイエス・キリストの生涯を通じて示された模範に副うた生活が出来ることを物語っていることに於て重要であります。彼は人間生活に於ける完全な模範でありました。彼が模範として示したような行動を私たちすべてが偶然に時たまでなく、そのような行動の価値を覚って、自己の選択を以て不断に為すことが出来る多くの証拠があるのであります。

正直であることは一つの習慣であって、その内から徳が生長します。人がその人の人生哲学を形成している価値と標準に照らして彼自身を誠実にしていることは道徳的生活の本質であります。末日聖徒イエス・キリスト教会に於てはその価値と標準は神からもたらされ、教会を指揮するところの神性な律法が含まれているのであります。

結　論

前に指摘したように神性な律法は人間の生活を指示する為に、神が授け給うた助言であり、それは彼らを援けてその大いなる能力を進歩させ、神に向って完成の域に達する迄彼らを導くのであります。

教会制度の機能は最初から人類社会に指示を与えて居ります。如何に成功的に集団生活をするかが最も強調された処であります。エノクの町に於ては人々は移される程に完成の域に達して居りました。〝彼ら心を一にし、精神を一にし、義に住みたればなり。されば彼らの中に貧しき者一人もなかりき〟（モーセの著　七・十八）

すべてのアダムの子供たちは正しい生活の根本原則を教えられて居りました。けれどもエノクの町でこの原則を実行していた者は少かったことは明らかであります。

他の模範はモルモン経のニーファイ第四書で人々が神性な生き方をして二百年間、共に平和に生活したことに見られます。

聖なる文学は正しい生活の提案に満たされて居ります。神性な律法の知識を持っている多くの人が居ますが、彼らがその原則を彼らの生活にあてはめる迄は、正義を生み出すことが出来ないのであります。私たちが救主の教える程度迄生活出来たら、人間干係に於て完全となり、世俗の世界と異なるのであります。

教会制度の機能はエノクの民、及びニーファイ第四書の民のような行為の標準をつくることであり、救主の模範に従って人の行為を完全に進歩させることであります。

〝御言を行う人になりなさい〟

考察の為の考え

(一) 福音の原則を行って貴方の楽しく行っていることを妨げますか？

(二) 貴方の宗教活動と日常生活に何らかの相違がありますか？

(三) 貴方の宗教と、貴方が立派な市民として生活することとの間にどのような関係がありますか？

(四) エノクの時代の民又は第四ニーファイの民はどのように私たちと相違していますか？

参考　新約四福音書、モルモン経、ニーファイ第三書　ニーファイ第四書、高価なる真珠　モーセの著七十八

㋺ 一の戸籍に在った者について新戸籍が編製され、又はその者が他の戸籍に入った場合には、後の戸籍において前の戸籍を表示して置かなければならない。かくすることによりその者の戸籍は前後のつながりが保たれる。（戸籍法十三―七）

㋩ 戸籍に関する届出、報告等により、記載事項訂正又は更正した場合のその事由。（規則三〇―一）

㋥ 届出、申請の受付年月日（届出人又は申請人から市町村の窓口に提出、郵送された年月日）と、事件の本人でない者が届出をした場合の届出人又は申請人の氏名及び資格。（規則三〇―二）

（注） 他の市町村長が受理し、送附して来た場合は、受理した市町村長の受付年月日と本籍地の市町村長の受理年月日。

㋭ 報告又は請求の受付年月日及び報告者又は請求者名。（規則三〇―三）

㋬ 証書又は航海日誌の謄本の受付年月日及び証書又は航海日誌の作成者名。（規則三〇―四）

㋣ 他の市町村町又は官庁から届出・申請その他の書類の送附を受けた場合にはその受付の年月日及びその書類を受理した者の名。（規則三〇―五）

㋠ 戸籍の記載を命ずる裁判（戸籍法第一一八条に規定する裁判）の年月日及び裁判所名。（規則三〇―六）

以上が、事項欄全体に共通とするもので、今度は事項欄を分けて考えてみましょう。

A〔戸籍事項欄〕は主に戸籍内の各人に共通な戸籍全体に関する事項を記載。

(1) 新戸籍編製に関する事項
(2) 氏の変更に関する事項
(3) 転籍に関する事項
(4) 戸籍全部の消除に関する事項
(5) 戸籍全部に係る訂正に関する事項
(6) 戸籍の再製又は改製に関する事項
(7) 行政区画又は土地の名称変更、地番変更に関する事項。等

B〔身分事項欄〕は次の如き事項を記載。

(1) 出生に関する事項…子の欄
(2) 認知に関する事項…父及び子の欄
(3) 養子縁組又は離縁に関する事項…養親友養子の欄
(4) 婚姻又は離婚に関する事項…夫及び妻

戸籍について（其の四）

(3) 事項欄……戸籍事項欄と身分事項欄の総称で届出・申請、報告等に基き、戸籍法第十三条及び規則第三十条に法定されている戸籍事項は全て本欄に記載される。

㋑「戸籍に入った原因」（戸籍法十三―二）

出生、婚姻、縁組、分籍等新たに戸籍に記載され、又は一の戸籍から除かれて新戸籍が編製され若しくは他の戸籍に入るあらゆる事由をいう。裁判による離縁、離婚又は帰化等々。

の欄

(5) 親権又は後見に関する事項…無能力者の欄

(6) 死亡又は失踪に関する事項…死亡者又は失踪者の欄

(7) 生存配偶者の復氏又は姻族関係の終了に関する事項…生存配偶者の欄

(8) 推定相続人の廃除に関する事項…廃除された者の欄

(9) 戸籍法九八条・九十九条の入籍に関する事項…入籍者の欄

(10) 分籍に関する事項…分籍者の欄

(11) 国籍の得喪に関する事項…国籍得喪者の欄

(12) 名の変更に関する事項…名を変更した者の欄。

(13) 就籍に関する事項…就籍者の欄

(14) 死亡によって婚姻の解消した旨の記載…生存配偶者の欄

(15) 夫又は妻が日本の国籍を有しない者につき夫の又は妻の国籍に関する事項…夫又は妻の欄。

(16) 新戸籍を編製され又は他の戸籍に入る者の入籍に関する事項及び従前の戸籍の表示…その者

(17) 除籍の事由…除籍される者の欄

(18) 戸籍の一部を訂正の場合の趣旨及び事由…訂正すべき記載のある者の欄

(注) 以上の外に身分に関する事項として死産した認知、胎児の認知、死産届に関する事項等がありますが、これらは戸籍の記載を必要としない。

〔4〕 父母欄……戸籍法第十三条四項参照

実父母の氏名が記載される。

(注)1、嫡出でない子で父の認知がない子については父欄が空欄となる。認知の届出が受理された時は届出に基き父の氏名が記載される。

(注)2、氏が同一である時は母の欄については氏の記載が省略される。

(注)3、この欄が空白となっている時は、棄児又は就籍者等のように父母の不明な者。

〔5〕 父母との続柄欄……戸籍法十三条四項参照。

実父母との続柄が記載される。

(注)1、本人の男女の別及び嫡出子が嫡出でない子かの別をも明らかにする。

(注)2、続柄を定める標準は、父母につき夫妻単位でその間の子のみについて数え、父又は母の一方のみを同じくする子は算入しない。

従って先妻のある子と後妻の子とは各別にそれぞれ長二男女と定める。

(注)3、長二男女の定め方には嫡出でない子又は養子はこれに算入すべきでない。

(注)4、嫡出子である限り、命名前に死亡した嬰児や国籍を留保しない子であっても算入しなければならない。

(注)5、双生子の嫡出子は出生の前後によってその順序を定める。

〔6〕 養父母欄……戸籍法第十三条五項を参照。

養父母の氏名で記載される。

(注) 数次縁組した養子については、最後の養親の記載のみでさしつかえない。

〔7〕 養父母との続柄欄……戸籍法第十三条五項。

養子となった者につき、その縁組の記載する際に前項の養父母欄とともに特に設けて養父母との続柄が記載されている。

(注) 養子が男である時は「養子」女であるときは「養女」と記載される。

(斎藤稔男)

伝道部扶助協会長メッセージ

柳田聰子

連日摂氏三十五度前後の猛暑がつづいています。扶助協会は夏季休暇の季節ですが、定例集会のレッスンが休みでも忠実勤勉な多くの姉妹達は秋のバザーに備えて仕事会に励んで居られることと思います。

真夏の太陽はその素晴しいエネルギーを日本の地にぶつつけて来ますが、私達も一層元気に暑さに負けずに己れの信仰のエネルギーを発散しましょう。そのエネルギーが結集される処に神様の王国が築かれて行くと思うと嬉しいことではありませんか。

此の度北部極東伝道部扶助協会に会長として召され、御心に従う様努力する決心をして責任を頂きました。三年四ケ月西中央地方部にあって地方部の仕事をさせて頂き多くの支部に於ける忠実な妹姉達と接する機会がありました事を深く感謝して居ります。各支部に於ける忠実な姉妹達の活動に接する機会を通して、どれだけ私自身励まされ、主に対する確信を強め得たことでしょう。どんな責任であっても教会に召されて受けた責任を果し、働けば働く程主の励ましと恵みによって安心と喜びを得られる事を証したいと思います。

私達は一人一人前世にあった時から個性を持っていたものが、今日あるまでに異った環境を通って来ました。ですから勿論一人一人性質も違い、感じ方も異っているのは当然だと思います。隣人が自分と同じ感じ方をしなくても同じやり方をしなくても当然ではないでしょうか。けれども信仰に於て唯一人の天のお父様を慕い、唯一人の救い主に頼っている点で私達は全く一致した兄弟姉妹であると思います。性質や環境が違ってもその点では完全に同感である筈だと私は信じています。その一致してお慕いする天のお父様の御国建設の為に誠命を守り仕事をする時、私達は心を一つにして一つの目的の為に働くことは当然あるべき姿ではないでしょうか。「信じなさい、ホレ信じなさい」という歌が流行している様ですが、私は「あなたの姉妹（又は兄弟）を信じなさい」と歌いたいと思います。

一つ信仰につながっている私達、信じ合って補い合い、助け合ってみんな一緒に天のお父様のみそば近くに進歩したいと思います。

何卒皆様これからも御一緒に働きましょう。私も助けて頂きたいと思います。住所を書きます。何でも提案し、励まして下さい。

名屋屋市昭和区川名本町四ノ一

では又。

母親ルシイ・マック・スミスの語る

ジョセフ・スミスの生涯（二十二）

第三十八章，教会の各支部カートランドへ移る

——バッファローにおける奇蹟（つづき）

わたくしはすぐにそこを出てさきに行きました。するとやがて下宿がずっと並んでいるところへ来ましたが、その一つを見るとだれも入っていない様子でした。そこで二三日の間貸してもらいたいのですが（借りられるでしょうか）とたずねました。その家主というのは七十に手がとどきそうな快活な老婦人でしたが、わたくしは、これまで地主にしてきたように、わたくしたちの困っている事情を述べました。すると、「さてねえ、どうしたものかねえ。あなたはどこへ行きなさるのかね」とその老婦人は言いました。

「カートランドへまいります」とわたくしがこたえると、

「あなたはバプテストかね」とききますので、

「モルモンです」と言いますと、

「モルモンだって！」と、その老婦人は生き生きとした人の良い調子で絶叫しました

「モルモンて何だろう。わたしはそんな名前を聞いたことがない」。そこでわたしは言いました。

「わたくしは今モルモンだと申しましたが、それは世間の人の呼ぶ名前で、ただ一つの名前は末日聖徒だとわたくしどもは認めています」。

「末日聖徒だって！それもわたしは聞いたことがない」とその老婦人が言い返しました。

そこでわたくしは、この教会は一人の予言者の仲立ちによって世の中にあらわれたのでありまして、わたくしは（何をかくそう）その予言者の母でありますと言いました。

「何ですって！今の時代に予言者が居るのですって！そんなことは今まで（この長い一生のうちに）聞いたことがない。もしあなたがわたしのところへ来てくれるなら、あなたの（世話をしている）姉妹たちとその子供たちとに部屋を貸してあげましょう。しかし、あなたはわたしの家へ来て、わたしにすっかりその話をしてくれなきゃいけませんよ」とその老婦人が言いました。

わたくしはそうしますと約束をして、さてそれから船まで戻ってくると、姉妹たちとその子供たちをその老婦人の家へ移してもらいました。そしてこの人たちを安楽にさせてからその老婦人の部屋へ入ってゆきました。二人はすぐに話しこみましたが、その中でわたくしはできるだけはっきりと福音の原則を説明しました。そして、聖霊を受けるための按手礼のことを話しますと、その老婦人はパウロがエペソで見つけた弟子たちが驚ろいたと同じように驚ろいて「あなたは聖霊だと言ったが、聖霊とは何のことかね」とききました。そこでわたしはひきつづき説明をして、とうとうあくる日の午前二時になってしまったのでわたくしたちはまた船へ移りました。わたくしたちが船へつくと、ブレーク船長はわたくしたちに、これはわたくし船長のねがいだが、いつでも出航の合図があり次第出航のできるように、今からは船から出ないでいていただきたいとたのみました。それと同時に船長は一人の船員をつかわして氷の厚さをはからせましたが、その船員は戻ってきて、氷の厚さは二十呎にも達して居ります。これはわたくしの考えですが、わたくしたちは少くとも港にもう二週間は滞在するでしょうと言いました。

これをきくと、ポーター・ロックウェルは彼のおじさんに逢うため上陸しようとし始めました。すると、彼の母はポーターにそうさせまいと努力しましたが、ポーターは母親のことばなど耳に入れませんでしたので、母親はわたくしのところへ訴えてきて言いました「スミスのお母さん。どうぞポーターをとめて下さい。ポーターはあなたのほかだれの言うこともききませんから」。

そこでわたくしはポーターに言いました。もしもあなたが（どうしても）行くなら、わたしたちは陸にあなたをのこして行くことになるだろう。しかし、あなたは好きなようになさい、と。ポーターが船を下りるとほかに数人の者が彼について行こうとしましたがわたくしが彼らに話しかけると、彼らは「スミスのお母さんの言う通りにします」と答えてすぐに船に戻りました。

ちょうどそのとき、ウィリヤムがわたくしの耳にささやきました「お母さん、ちょっとあそこの騒ぎを見てごらんなさい。あなたが行って止めてくださいませんか」。（これを聞くと）わたくしは、わたくしたちの一行の大部分が居る（船の上の）そこへ行きました。そこへ行ってみると、数人の兄弟と姉妹とがさかんに争論をしているかたわらほかの者たちがぶつぶつがやがや言っていると、多勢の若い婦人が全く見知らぬ男の船客たちと、くすくすげらげら笑ってふざけながら（これを見物して居り）、一方陸の方やほかの船の上に居る何百人という人々が、わたくしたちの会員の中にあらわれているこのわいわい騒ぎとくだらない行動とを面白がって見ているのでした。

わたくしはその中へ割って入ると言いました「兄弟姉妹のみなさ

ん。わたくしたちは自分から聖徒であると言い、俗世のことをことごとくすてて神に仕えるという目的で世の中から出てきていると公言している(者ではありませんか)。それであるのにあなたがたは、最初からあなたがたの知恵のたりないあやまった行ないによって、キリストの福音をあざけりのたねにしようとするのですか。あなたがたは(何ごとも)神に信頼していると公言しています。それならば、どうしてこのように不平不満を言う気になるのです? あなたがたは昔のイスラエルの子らよりも、もっと道理をわきまえない人たちです。というのは、ここにいるわたくしの姉妹たちは自分の安楽椅子を切に望んで居り、物事をやり通す固い精神と強い気力とを期待していた兄弟たちは、この旅行の終らないうちに飢え死をしてしまうにちがいないと思うとはっきり言っているからです。どうしてそうなのですか。あなたがたに、今まで不足していたものがありましたか。わたくしが今までに、あなたがたに毎日食べものを供えなかったことがありますか。自分自身のものを用意してこなかったあなたがたを、わたくしの子供たち同様にもてなさなかったことがありますか。あなたがたは信仰をどこへやりましたか。あなたがたが神を信頼する信頼はどこにありますか。あなたがたは、万物が神によってつくられ、神はその御手に成るわざをことごとく支配していらっしゃることを悟ることができませんか。もしここに居る聖徒が一人のこらずその心を高めて神に祈り、わたくしたちの前に道が開かれるようにねがうなら、わたくしたちがすぐさま旅をつづけることができるように、氷を裂いて道を開いてくださることは神さまにとっていとたやすいことなのです」。

わたくしがこう言い終ったとき陸に居た一人の男が「モルモン経はまことの(書物)か」と言いました。わたくしはこれにこたえて「その書物は神の力によって世に出され、聖霊の賜によって飜訳されました。もしわたくしが、天使長ミカエルのラッパのように高く声をひびかせることができるなら、わたくしはこの真理を陸から陸海から海へ宣べ伝えて、その反響はあらゆる島々に及び、アダムの子ら(全人類)は一人のこらず(わたしはその真理を聞かなかったと)言いのがれをする余地はないはずです。わたくしは、はっきりあかしをします。神はこの末日にその姿を再び人にあらわしたまいその民をすばらしい地に集め始めておいでになります。もしもその民が神のいましめを守るなら、そのすばらしい地は神から与えられるにちがいありません。それだのに、もしもその民が神の律法にそむくなら、神はその御手をあげてその民を国の外に散らし、地のおもてから断ちたもうにちがいありません。またわたくしはあかしをします。神は生命から生命に至る喜びを経験させ、死から死に至る苦しみを経験させる一つの御わざを、今日ここに居るすべての者のためにお始めになりました。もしもわたくしたちがその御わざを受けるなら、わたくしたちは生命から生命に至り、もしも受けなければ死から死に至るにちがいありません。すべての人はその心に思うものを受けるにちがいないからです。もしも人が真理をねがうならその人は真理を聞いて生きるでしょう。もしも人が神のことばが単純であるからと言ってこれをふみにじるなら、その人は自分の前に天の門をとじるのです」と言ってから、わたくしたちの一行の方へむき直り「さて兄弟姉妹のみなさん。もしもあなたがたが一同心を合せて天にねがいを上げ、今氷がやぶれてわたくしたちが自由になるよう祈り求めるなら、主が生きたもうごとく確かに、その通りに

なるにちがいありません」と言いました。

わたくしがこう言った瞬間、雷のとどろきわたるような音がきこえました。これを聞くと船長は大声で命じました、「総員部署につけ！」。氷が割れたのです。氷は左右にはなれて、船がようやく通れるだけの通路があきました。そのすき間は本当にせまかったので船がそこを通りすぎるとき、水車のバケツ（当時の蒸気船はスクリューのない外輪船であったので、その外輪についている水かき）が氷に当って大きな音を立ててちぎれました。その音は船長の命令する大声や、水夫たちの答えるしわがれ声や、氷のくだける音や、見物人の叫び声や騒ぎと一しょになって、その光景はまことにおそろしいものでした。わたくしたちがやっとそのせまいすき間を通りすぎるやいなや、氷は再びもとの通りに合わさってしまいました。それでコーレスヴィルの兄弟たちはバッファローにとりのこされて、わたくしたちについてくることができませんでした。

わたくしたちが港をはなれていたときに見物人の一人が大声を出しました。「あれ、モルモンの連中だ！ あの船の吃水線はいつもより九インチしずんでいる。みろよ、あの船は沈むぞ、まちがいなしだ」。

全く、その人たちは確かに船は沈むと思っていたので、事務所へとんで行ってモルモンの連中は沈んだと発表しました。それで、わたくしたちはフェヤポートへ着いたとき、自分自身が死んだことを伝えているニュースを新聞で読んだのでありました。

わたくしたちがバッファローの波止場から奇蹟的に（命びろいをして）のがれると、わたくしたちは一同を呼び集めて祈禱会を開き神がわたくしたちを救い出すに当ってあらわしたもうためぐみに感謝をささげました。しかし、わたくしたちの祈禱会が閉会になる前に、船長の下に居る航海士がわたくしのところへ来て言いました。「スミスのおくさん。あなたの子供たちに祈るのを止めさせてください。止めさせないと、わたしたちはみんな一しょに地獄へ行ってしまいます。もしわたしたちが滅びるなら、ただの一人も部署につかせておくことはできません。彼らはあなたの祈りに大変心をひかれているからです」。それで、わたくしたちの祈禱会は解散になりました。

バッファローの港を出て間もなく、わたくしたちの一行の中には船の動きの影響を感じ始め、船よいにかかった人たちがありました（これを見て）わたくしは料理人のところへ行くと二十五セントわたして、船よいにかかっている人たちにやるのでお湯をすこしもらえないでしょうかとたずねました。料理人がわたくしのたのみをきいてくれましたので、わたくしはこのようにして病人たちを気持ちよくしてあげることができました。

わたくしは船長と一層知り合いになったとき、わたくしがゼネラル・マックの妹であることを話しました。船長はわたくしが彼の旧友であるマックの親戚であることを大へんに喜んだようでして、わたくしは船に乗っていた間中、船長や船員たちから多くの心尽しと尊敬とを受けてくらしました。

わたくしがフェヤポートに着くじき前にわたくしはハンフレー兄弟と二人で一行のためにある取り引きをする目的で上陸をしました。わたくしたちが陸上に居るうちに、この兄弟はわたくしにむかって、あなたは不必要に自分自身を奴隷にしている。あなたに家族の世話をしてもらっている姉妹たちは、あなたが家族の世話をする

ように自分自身の夫や子供たちの世話を（しようと思えば）することができるのだ。ほかの人はどうか知らないが、わたし（ハンフレー兄弟）はそんなに長くは船に乗っていないだろうと言いました。

わたくしはハンフレー兄弟に、ご親切ありがとう、でもわたくしは自分のからだをこわさないでやって行けると思っていますと答えました。それで、その問題はそれきりになってしまいましたが、その次に上陸したときハンフレー兄弟はもう帰ってきませんでした。どこへ行ったかわたくしは知りません。

わたくしたちの上陸予定地であったフェヤポートに近づくと、船長、乗客、船員たちは涙を流してわたくしにわかれのことばを述べました。しかし、上陸をしてみると、わたくしたちの一行は前にもましてがっかりしました。それで兄弟たちはわたくしのまわりへ来て、このさき行く見込みが全然ないから、自分たちの持ち物のそばに野営をして見張りをすることができるよう、自分たちの妻に毛布を縫い合わせテントをつくらせてくれとたのみました。

（それで）わたくしは、そのようなことはしませんと言いましたが、姉妹たちはと言うと、泣いている者もあれば口をとがらせている者もあれば（さまざまであって）、家族の世話をしている者はほとんどありませんでした。わたくしがそれらの姉妹の間を通って行きますと、湖の岸からすこしはなれたところに腰をおろしている見なれない人に気がつきました。それで、わたくしが、カートランドまでどれくらい離れていますかとききますと、その男の人はとび上って叫びました。「まあまあスミスのお母さんではありませんか。わたしはこうやってこの三日もお待ちしていたんですよ」。

わたくしはその通りスミスの母ですと答えると、わたくしたちの持ち物をカートランドへはこぶ「曳車用の牛（馬）」を手に入れることはできないものかとたずねました。するとその男の人は、あなたはもう心配なさるにはおよばない。ジョセフが今にもここへ来られるし、二十四時間たたぬうちにあなたの一行を待ち受けている家へすっかり荷物をはこぶのに充分な「曳車用の牛（馬）」も着くのですと言いました。この人の口からジョセフの名前を聞くと、わたくしは驚ろいてとび上りました。わたくしはそのときやっと、今すぐ夫にも子供たちにも会えるということを実感し始めたからです。わたくしがその見知らぬ人からふりむくと、サムエルがやってきました。そしてそのすぐあとからジョセフがやってきました。わたくしは（二人の顔を見ると）右の手をサムエルにさし出し、左の手をジョセフにさし出しました。二人はわたくしに会うとうれし涙にくれました。サムエルはウォータールーから来る一行に会えと夢の中で神に告げられたので、何か災いがわたくしたちをおそったのではないかと恐れていたからであり、ジョセフはすでに受けていた情報からわたくしの受けていた疲労がもとでわたくしの命が危いのではないかと心配していたからでありました。

二人がこれらのことをわたくしに話してしまうと、ジョセフはわたくしを一行から連れて行こうと言いました。ところが姉妹たちがどうかわたしたちも一しょにつれて行ってくださいとねがったのでジョセフは彼らをペインスヴィルまで伴なって行きました。そこでわたくしたちはパートリッジ兄弟の家にとまりました。そして、わたくしたちは一行全部のために用意されたけっこうな夕食にあずかりました。

これで元気回復いたしますと、すぐにわたくしはキングスベリー

兄弟の車にのせられて兄弟の家へつれられて行き、そこで大切にされた上大へん親切な待遇を受けました。そしてここからわたくしはジョセフと一しょにカートランドへ行きました。カートランドへ行って最初に入った家はモーレー兄弟の家でした。ここでわたくしは最愛の夫と再会してわたくしたちは大へん喜びました。読者の皆さまの中には、多くの方々がわたくしの今の境遇をよく理解していらっしゃるでしょう。これらの方々は、わたくしたちの家族が再び一しょになってからの情景を、わたくしがどんな気持ちでお話しするか想像することができます。しかし、それははぶくことにしましょう。欠けているところは想像でおぎなってもらわなければなりません。もしもこのような出来事にわたくしの感情をほしいままに費やしているなら、わたくしの力はこのお話の終らないさきに尽きてしまうことでしょう。

わたくしたちがカートランドに着いて間もなくエマは双子（ふたご）をもらいました。これは以前に亡くなった双子（ふたご）のかわりに彼女に与えられたのでありました。

註。この双子は、出産のときに亡くなった「ジョンマードックの妻」のものであった。この双子は千八百三十一年四月三十日にうまれ、各々ジョセフとジュリヤと命名された。

短　歌（投稿）

〝生き死には我がものならず
　主にまかせ
悔なく生きむ今日の一日を〟

〝朝あけのさやけき星は窓にみつ
　一日の守り床に祈りぬ〟

〝祈り終えて心静けく澄み渡る
　朝の大空をしまし見上ぐる〟

〝窮すれどゆくべき道を開き給う
　神の導き露うたがわじ〟

〝うつそみの望みはいつか消えゆけど
　ゆだねまつりて露うたがわじ〟

〝萌え出づる木々の若葉は生々と
　生さる喜びに満ちみちて見ゆ〟

私の短歌より

京都支部　大西三重子　姉妹

Guide could inuite the tourist to come to a certain hotel or eating place, describing the accomodations, the foods being served, etc. Tell a little of the background of the founding of the hotel or the discovery of a certain food or the meaning behind one of the temples. The guide could be dressed in appropriate clothing and visual aids will make it more interesting.

Fourth Week

1. After reading and discussing words, phrases and the story in Japanese and English ask for the students' opinion as to what the mother must have said at the dinner table the night before; why the golden rule is important here; and why the mother and son shared "a bit of pride" in each other.
2. Busy Beaver Scramble Puzzle
   (After reading the story rearrange the words to spell words that tell about the beaver)
   VEBEAR
   ETHET
   DADELR-ITAL
   EWB-TEFE
   WALCS

   The beaver is a busy and useful animal.
   He has a paddle-shaped tail and webbed feet for swimming. He has four sharp teeth for gnawing wood. He helps check soil erosion and reduces flood damage. He even makes fishing ponds. In general, he is a "do-good-er!"
   (Answers: beaver, teeth, paddle-tail, web-feet, claws.)
3. Olympic Guide:
   Continue in practical workshop as in previous weeks . . . answer questions that students may have in how to explain a certain thing or what is the right way to say something in English. Encourage them to write down correct sentences that may be useful to them. Olympic guide play-acting can be an enjoyable and educational experience so teachers —use your originality!

To the teacher:

Don't forget to really advertise M.I.A. . . . use your own originality as as well as using ideas in previous issues of the Seito No Michi.

If there is to be a special function in M.I.A. advertise it.

Use members who have pretty good English to announce about M.I.A. and the activities and to inuite the students to stay.

Remember too, that a personal invitation from you as the teacher or from other members after class will make the students feel more at ease in staying to M.I.A.

Also don't under-estimate the power of singing . . . demonstrate a little of the good old Mormon enthusiasm! Try rounds or M.I.A. songs, put original words to familiar turnes, not only to advertise M.I.A. but to put students at ease and to enjoy yourselves!

frozen. He had remembered the first sale and had made it good. He had worried, however, because he could not remember to whom he had sold the second sack, and knew that he had probably been *unfair* with one of his customers.

Jeffrey had a return to make, too, Mrs. Jefferson explained; and then mother and son walked home together, each shasing a bit of *pride* in the other.

September — (Reading the whole outline for the month will greatly aid in your preparation.)

First Week

Each week a different story is to be studied. They are very brief. so study both Japanese and English in order to transmit the meaning.

1. Read and discuss the first story in English and Japanese, calling attention to difficult words and phrases. Students should practice reading the story to each other so if called upon could read it correctly in front of the class. Ask questions about the meaning behind the story and ask students if they have instances in their own lives that illustrates honesty.
2. Birdhouse Criss-cross by Betty Barford

   1. Large black bird.
   2. Like string, but much heavier.
   3. When something is not shut.
   4. "I saw a circus in a tent, I had such fun the day I _____."
3. (Plan ahead each week for the week that follows on this section.)

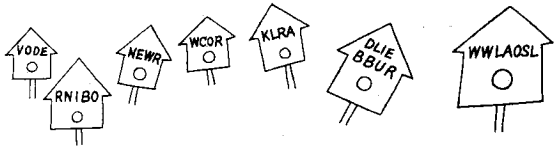
   Because the Olympics are coming to Japan next year the Japanese people are anxiously preparing. To help them be prepared when foreigners ask them for help in finding directions use time in English class as a practical workshop.

   To demonstrate; 2 missionaries should participate, one as a lost tourist, the other as a Japanese person. The lost tourist asks questions in trying to reach a certain destination and the other person can tell him to ride the train, tell a cab driver etc. Then have a student come up to play the guide.

Second Week

1. Read and discuss the second story in English and Japanese. Have students repeat after you as you pronounce words and phrases. Discuss the underlyng meaning using stimulating sentences such as:
   1. What was the conflict in Janice's mind?
   2. Why was it important for her to keep her promise to the children?

   Divide class in several smaller groups and have students take turns either reading the whole story in turn or read a little in turn.
2. Bird Puzzle: On each bird house are the letters you need to spell the name of a bird. Rearrange the letters and spell the birds' names right.



3. Olympic Guide: (Pictures and maps will add interest)

   The teacher can act as tourist and students one at a time could invite the tourist to come to a certain location or participate in a certain function. They may need a week in advance to prepare for this. For example: Invide them to walk through Hibiya Park. Tell of the fountain, the grass, flowers etc, that can be seen; the restful feeling that can be felt and anything else that would make the person want to visit. Explain the route to the park from various outlying locations or hotels. (The teacher may have to do one as an example.)

Third Week:

1. As this story is short if possible discuss a little more Grover Cleveland's background or discuss United States government or answer questions that the students may have about government affairs.
2. Try a spelling bee! Divide the class into two groups. Begin with simple words, gradually using more difficult words and words from the stories. When students are eliminated have them write the word they mispelled ten times and write a sentence using the word.
3. Olympic Guide:

English Plan for September

HERE IS HONESTY IN ACTION

by Janice J. and Arthur S. Anderson

It is not enough for a person to be honest himself. It is also his *responsibility* to teach honesty to others, giving *inspiring*, real-life examples of its *application*. Many persons—who say they tire of *abstract advice* on the *topic*—thrill when given true stories about honesty in action. Here are four true stories about honesty to *motivate* us all:

Spiritual Savings

The Heaneys were *saddened* when they received a telegram late in August saying Mrs. Heaney's father had passed away at the family home in New Jersey. The situation was complicated as well as sorrowful, since it was only a week from the beginning of school and the four Heaney children would also be expected to make the *journey* to New Jersey. it was *evident* that the *expense* of air travel would work a *hardship* on the family *finances*.

When Mr. Heaney went to the airline ticket office, he took his oldest son, Tom, who had just turned 12. "The three yourger children can go half fare," the ticket agent said. "You said the oldest boy has just turned 12, so why don't you just say he is under 12? This will save you half of his fare, too," the clerk suggested.

Certainly Mr. Heaney could use the money. And after all, it was only a matter of a few days in age. The father turned to his son and saw Tom looking back at him *quizzically*. "What would be te real cost of saving the fare?" the father asked himself.

"He is an adult," Mr. Heaney said to the ticket agent. "He will pay adult fare."

Tom straightened and stood a little taller; so did his father.

Instead, She Kept a Promise

Janice Thompson agreed to stay with her nieces and nephews while their parents took a holiday. She soon discovered that the children, who ranged from 8 to 12 years, had very little *regard* for the promises they made.

One day the children saw an *advertisement* for a *circus* and asked Janice if she would take them to see it the following week. She agreed.

The next day Janice received a letter from a dear friend she had not seen for ten years. The friend wrote that she would be passing through town on her way to travel abroad, and she hoped to see Janice for a few hours. To her *dismay*, Janice realized that the appointed time for the meeting *conflicted* with the time of the circus performance.

Without thinking, Janice said to the children, "I'm sorry, but I can't take you to the circus after all. A friend of mine is going to be here just at that time."

It was then that she realized that she had set an example of the very thing she *abhorred* in the children. After much *deliberation*, she wrote to her friend and told her that a conflicting appointment would *prevent* their having time together, though it was something she wanted very much.

Honesty Is Shown in Little Things

Grover Cleveland was one of nine children who lived his life in *rural communities*. The Cleveland family lived on very *meager* means and moved frequently in an effort to obtain even a modest living.

On one occasion the Clevelands had a neighbor whose chicken laid an an egg in their yard every day. Grover was taught that the egg was rightfully the property of the neighbor, so he returned it faithfully each time.

Grover Cleveland served two terms as President of the United States: 1885-1889, 1893-1897. His election on both occasions resulted to a great extent from the fact that he had a *reputation* for *uncompromising* honesty.

Dollars and Sense

"We got even this time, Mom," Jeffrey called, as he entered the back door and placed a sack of groceries on the kitchen table. In a *flash of regret*, Blanche Jefferson, mother of five, recalled a remark she had made at the dinner table the night before. She had been angry at the market manager, Mr. Hoffman, because the apples she purchased to bake were *frostbitten* and the dessert was *spoiled*.

"What did you do, Jeffrey?" his mother inquired.

"Nothing," Jeff replied. "I didn't do anything. Mr. Hoffman just gave me a dollar extra in change. He made a mistake when he counted it out. It serves him right for those frozen apples."

"I think we had better go back together and settle our differences with Mr. Hoffman," the mother said. Then, after a brief review of the meaning of the *golden rule*, the two returned to the store.

Mrs. Jefferson explained about the apples, and learned that Mr. Hoffman had sold only two bags of apples before he discovered they were

図書案内

教義と聖約
高価なる真珠
モルモン経　上質革製合本……1100円

教義と聖約
高価なる真珠　合本……300円

モルモン経（新訳）……300円
信仰箇条の研究……330円
モルモンとは？（新版）……150円
総合聖句の手引……150円
日本系図探究要覧……100円
アロン神権者用学科課程……150円
メルケゼデク神権、教師と生徒用
「モルモン経の読み方の手引」……200円
ナザレのイエス……100円
正しい日本史……100円
家督権の祝福……100円
料理の作り方……50円
求道者教育法……120円
神の王国……230円
イエス・キリスト……300円

日曜学校用

モルモン経物語……150円
旧約聖書物語……150円
家族の昇栄……200円
福音の実践……200円
奇しきみわざ(上)(下)……200円
我等の標準聖典……200円
古代の使徒……150円
シオン山の救い手たち……200円
教義と聖約の教え……200円

MIA用

我ら指導者のことば……200円
我らは信じる……200円
我らは奉仕する……150円
生活の目標……150円
MIA・エンサイン・ローレルの手引……150円
演説が上手になる法……150円
素晴しき考え……200円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌（新版）……400円
レクリエーション歌集……400円

……注文は各支部長へ……

THE SEITO NO MICHI
Volume 8, September 1964, Number 9
THE CHURCH OF JESUS CHRIST OF LATTER-DAY SAINTS
NORTHERN FAR EAST MISSION
14 Azabuhiroo-cho Minato-ku Tokyo Japan

支部所在地

北海道地方部

旭川　旭川市八条五丁目
MIA集会場　旭川公会堂
電話（二—一五四五）

室蘭　室蘭市幸町八九
電話（七〇五四）

小樽　小樽市富岡町一ノ三五
電話（二—八二二四）

札幌　札幌市北二条西二四丁目
電話（六三—七八六六）

東中央地方部

群馬　高崎市並榎町二七五

甲府　甲府市山田町六三

松本　松本市同心町六一二

新潟　新潟市中大畑町五五七
電話（二—八六六〇）

仙台　仙台市光禅寺通り二八
電話（二五—〇八九七）

東京中央　東京都港区青山北町六ノ三四
電話（四〇八—三三〇七）

東京北　東京都中野区江原町一ノ八ノ十四

東京東　東京都江戸川区小岩町六—七八〇
電話（六五七—五二二三）

東京南　東京都大田区南千束町二四九
電話（七二九—六三一一）

東京西　東京都武蔵野市吉祥寺東町一ノ七ノ一九
電話（二—六七六四）

山形　山形市七日町二丁目十二ノ二十三

横浜　横浜市港北区篠原町二九
電話（四九—八七七二）

西中央地方部

阿倍野　大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八
電話（六二一—八三二七）

福岡　福岡市浄水町四六

広島　広島市古田町古江四〇〇ノ三
電話（三一—六一三五）

金沢　金沢市上胡桃町一一

京都　京都市左京区下鴨東半木町　河合方

名古屋　名古屋市昭和区北山町三ノ四一
電話（七三—四二一〇）

西ノ宮　兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四
電話（五—〇一四一）

岡町　大阪府豊中市岡町北二ノ一八
電話（二—一三三六）

岡山　岡山市北方七〇

三ノ宮　神戸市灘区篠原本町四ノ三五
電話（八六—二六〇二）

柳井　山口県柳井市今市三九一

佐世保　長崎県佐世保市山手町
TAIKEI HOUSE CO., LTD.

沖縄地方部

普天間　沖縄宜野湾市野嵩区三二八

那覇　沖縄那覇市松尾区一三九

建築部事務所

東京都港区青山北町六ノ三四
電話（四〇二—四〇一〇）

聖徒の道

1964年9月1日発行
振替口座　東京16226番
発行人兼編集人　ダワエン・N・アンダーセン
発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会北部極東伝道部
東京都港区麻布広尾町14
印刷所　合名会社　三五堂